

5. 流域治水プロジェクトにもとづく実施状況について【資料-4】

幾春別川外地域部会（会議資料）

(1) 1級水系流域治水プロジェクトに基づく 各種対策のフォローアップについて

※各構成員にて今年度実施いただいた取り組み内容及び次年度以降の取り組み内容の御報告と各種対策の代表事例をご紹介させていただきます。

幾春別川外地域部会

- ・岩見沢市、美唄市、三笠市
新篠津村、月形町
- ・札幌管区気象台
- ・空知森林管理署
- ・北海道水源林整備事務所
- ・空知総合振興局
- ・石狩振興局
- ・札幌開発建設部

岩見沢市、美唄市、三笠市
新篠津村、月形町

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

	R5年度取り組み内容	住民(地域の防災リーダー等)参加状況	次年度以降の取り組み(予定)	住民(地域の防災リーダー等)参加状況
岩見沢市	氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策 市民と農業者の双方を対象とした田んぼダムや都市部での流域治水連携に向けたPR活動の実施		市民と農業者の双方を対象とした田んぼダムや都市部での流域治水連携に向けたPR活動の継続実施	
	被害対象を減少させるための対策			
	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・市民への防災に関する出前講座の実施 ・防災チャレンジ(小中学生を対象とした防災教育)の実施 ・市内在住の防災関係有資格者(防災士、防災マスター)を対象とした、会議・研修の実施 ・市民参加による防災訓練の実施	出前講座や市民参加による防災訓練は内容等を事前に町会と打合せを実施している。 防災関係有資格者連絡会議は内容を事前に有資格者と打合せし実施している。	・市民への防災に関する出前講座の実施 ・防災チャレンジ(小中学生を対象とした防災教育)の実施 ・市内在住の防災関係有資格者(防災士、防災マスター)を対象とした、会議・研修の実施 ・市民参加による防災訓練の実施	出前講座や市民参加による防災訓練は内容等を事前に町会と打合せを実施する。 防災関係有資格者連絡会議は内容を事前に有資格者と打合せし実施する。

■令和5年度 取組内容

- ・出前講座、防災チャレンジ、防災関係有資格者連絡会議を実施した。

○出前講座の実施（令和5年度12月末現在）

市民の防災意識向上のため、ハザードマップの見方や避難するタイミング、防災情報の伝達手段についての防災講和や、段ボールベット、段ボール間仕切りなどの避難所で使用する資機材の組立て体験を実施した。

	実施回数	参加人数
町会・自治会	12回	306人
防災チャレンジ	6回	630人
企業・団体	5回	62人
計	23回	998人



出前講座(町会・自治会)



出前講座(企業・団体)

・防災チャレンジ（小・中学校等での出前講座）

1. 高等養護学校

日 時：6月13日（火）14時00分～15時30分

会 場：東小学校

参加者：高等養護学校生徒（53名）

2. メープル小学校

日 時：7月20日（木）9時30分～12時05分

会 場：メープル小学校

参加者：メープル小学校生徒（19名）



防災チャレンジ(避難訓練)

3. 東小学校

日 時：7月24日（月）

会 場：東小学校

参加者：東小学校生徒、保護者及び町会役員（180名）



防災チャレンジ(避難所生活体験)

4. 幌向小学校・豊中学校

日 時：10月3日（火）11時35分～15時10分

会 場：幌向小学校・豊中学校

参加者：幌向小学校5・6年生（84名）

豊中学校生徒（135名）

保護者、町会役員等（35名）



防災チャレンジ(心肺蘇生体験)

5. 南小学校

日 時：11月17日（金）13時25分～14時10分

会 場：南小学校

参加者：南小学校5年生（66名）



防災チャレンジ(煙体験)

6. 第一小学校

日 時：12月14日（木）13時20分～15時00分

会 場：第一小学校

参加者：第一小学校4年生（58名）

○防災関係有資格者連絡会議の実施

市内在住の防災士などの防災関係有資格者を対象に、地域の防災リーダーの育成及び防災関係有資格者と地域との連携強化を図るため、令和元年度より会議を実施している。

令和3年度からは、より地域の実情に合った活動とするため、市内を5ブロックに分け、地域別の会議を実施している。

令和4年度からは、有資格者の防災に関する知識の向上やスキルアップを目的に講師を招き研修会を実施して防災活動に対する意識高揚を図っている。



防災関係有資格者連絡会議
(研修会)

○市民参加による防災訓練

防災関係機関等の協力のもと体験型の各種訓練を実施することにより、地域防災力の向上と市民の防災意識の高揚を図るために実施している。

令和5年度は令和元年以来4年ぶりに実施した。

日 時：8月5日（土） 9時00分～11時30分

会 場：中央小学校

参加機関：20機関

参加人数：220人



市民参加による防災訓練
(はしご車搭乗訓練)

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

	R5年度取り組み内容	住民(地域の防災リーダー等)参加状況	次年度以降の取り組み(予定)	住民(地域の防災リーダー等)参加状況
美唄市	<p>氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策</p> <p>【実施済み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通河川 川内川河床浚渫・雑木処理 ・普通河川 奔美唄川河床浚渫・雑木処理 ・普通河川 南一の沢川河床浚渫・雑木処理 ・普通河川 南奔美唄川河床浚渫・雑木処理 (11/15) <p>(令和6年1月完了予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通河川 間の沢川河床浚渫・雑木処理 ・普通河川 7号川河床浚渫・雑木処理 		河床浚渫・雑木処理を継続して実施	
	被害対象を減少させるための対策			
	<p>■1日防災学校の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道美唄養護学校 8/24 高等部1~3年生を対象に実施 37人 ・中央小学校 8/30 1~6年生を対象に実施 293人 ・東中学校 9/26 1年生を対象に実施 54人 <p>■防災に関する出前講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/23 1団体 11人 ・9/16 1団体 53人 ・10/20 1団体 7人 ・11/17 1団体 11人 ・11/30 1団体 7人 <p>■防災情報伝達システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録制メール導入 ・登録制電話配信サービス導入 <p>■地デジ広報による情報発信</p> <p>■コミュニティタイムライン作成 4団体</p>	<p>コミュニティタイムラインの策定については参加自主防災組織の会長等から事前ヒアリング、ワークショップを2回実施し、作成</p> <p>・ヒアリング 8/19 4団体 8人</p> <p>・第1回ワークショップ 10/21 4団体 10人</p> <p>・第2回ワークショップ 12/2 4団体 9人</p> <p>・防災訓練の実施</p> <p>・1日防災学校の実施</p> <p>・出前講座の実施</p> <p>・コミュニティタイムラインの策定支援</p> <p>・防災情報伝達システム登録啓発</p> <p>・地デジ広報による情報発信</p>	<p>コミュニティタイムラインの策定については参加自主防災組織の会長等から事前ヒアリングを実施。今後、ワークショップを2回実施予定。</p>	

■令和5年度 取組内容

・R5年度においては、河川の浚渫、1日防災学校、出前講座の実施、自主防災組織におけるコミュニティタイムラインの策定支援等により、「流域治水」の推進を図った。

河川の浚渫

① 川内川河床浚渫・雑木処理 【機械土砂掘削・雑木処理】



【着工前】

【完了】



② 7号川河床浚渫・雑木処理 【機械土砂掘削・雑木処理】



【着工前】

【完了】



防災教育の推進

1日防災学校(中央小学校・美唄養護学校他)

・全児童293名を対象に、市防災担当職員による授業を1时限ずつ実施。防災かるたや段ボールベッドの組立体験などで、防災の知識を深めた。



・高等部37名を対象に、市防災担当職員による授業を実施。段ボールベッドの組立体験を通じて防災の知識を深めた。



出前講座(自主防災組織等)

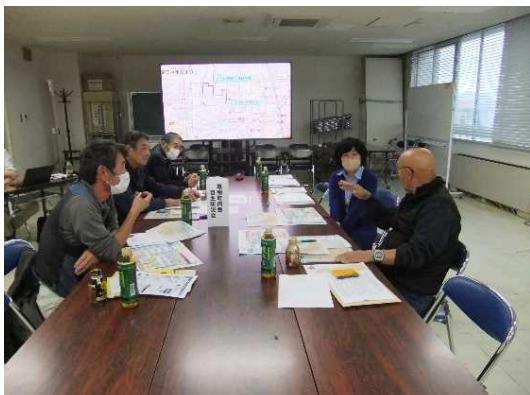
・自主防災組織や各団体等、延べ89名へ出前講座を実施し、防災の知識を深め、地域防災力の向上に努めた。



自主防災組織の活動支援

コミュニティタイムラインの策定

- ・共助の取組として、水害時に住民が安全に避難できるよう、地域の防災上の現状や課題を踏まえ、コミュニティの対応方針や避難ルールを定めた「コミュニティタイムライン」の策定を支援している。
- ・5年度は、自主防災組織4団体が参加するワークショップを2回開催し、タイムラインを策定した。



防災情報の周知

防災ガイドブックの活用

- ・令和3年3月に作成した防災ガイドブック(ハザードマップ等を掲載)を転入者に配布しているほか、出前講座等に活用している。
- ・ホームページに掲載している。

地デジ広報(8チャンネル)や登録制メール等の活用

- ・地デジ広報に市の防災情報を掲載することにより、インターネットを利用しない方でも、テレビで情報収集することができる。
- ・メールや固定電話を登録してもらうことで、プッシュ型の防災情報の発信を開始。



令和6年度についても、引き続き、出前講座等により防災教育を推進するとともに、コミュニティタイムラインの策定や防災情報を周知することにより、地域防災力を高めていく。

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

	R5年度取り組み内容	住民(地域の防災リーダー等)参加状況	次年度以降の取り組み(予定)	住民(地域の防災リーダー等)参加状況
三笠市	氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策 ・令和2年度の萱野川、3年度の川内苗圃の沢川に引き続き、令和4年度は、三笠工業団地内を流れる一号川と調整池で浚渫を実施し、河川の流下能力の向上と一時貯留効果の向上を図る。 令和5年度は、唐松青山町を流れる一哩の沢川で浚渫を実施した。		・引き続き河川の浚渫を予定。 R6実施河川～未定	
	被害対象を減少させるための対策			
	■ハザードマップ更新 ■防災展示の実施 ・10月28日(土)イオンスーパーセンター三笠店 ■1日防災学校の実施 ・9月7日(木)三笠小学校1・3・5年生 ■自主防災組織等に対する防災講習会の実施 ・4月29日(土)、5月1日(月)、7月9日(日)、7月19日(水)、10月5日(木)、10月10日実施 ■タイムラインの修正	自主防災組織を対象とした防災講習会を実施	■防災展示の継続実施(ハザードマップの掲示及び防災備蓄品の展示) ■1日防災学校の継続実施(ハザードマップに関する授業) ■自主防災組織等に対する防災講習会の継続実施 ■タイムラインの修正(継続)	防災講習会への参加を提案する

市民等を対象とした防災意識の普及啓発

①防災講習会

- ・令和5年4月29日（土）：多賀町中央町内会

【内容】防災講話、火災予防講話、消火訓練

- ・令和5年5月1日（月）：萱野地区自主防災組織

【内容】備蓄品の説明

- ・令和5年7月9日（日）：多賀町西親交会

【内容】避難訓練、備蓄品の説明、ダンボールベッド組立

- ・令和5年10月5日（木）

【内容】ハザードマップ説明、備蓄品の説明、ダンボールベッド組立

- ・令和5年10月10日（火）

【内容】



防災講習会



防災学校

②防災学校

- ・令和5年7月19日（水）：三笠市立萱野中学校

【内容】避難所運営訓練

市民等を対象とした防災意識の普及啓発

③一日防災学校

- ・令和5年9月7日（木）：三笠市立三笠小学校（1年生・3年生・5年生）

【内容】防災講話、防災かるた、ダンボールベッド組立



一日防災学校

④防災展示イベントの実施

- ・令和5年10月28日（土）：イオンスーパーセンター三笠店

【内容】ハザードマップ、備蓄品、ダンボールベッドの展示・説明

※消防団員募集PR活動を兼ねて実施



防災展示イベント

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

		R5年度取り組み内容	住民(地域の防災リーダー等)参加状況	次年度以降の取り組み(予定)	住民(地域の防災リーダー等)参加状況
新篠津村	氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策				
	被害対象を減少させるための対策				
	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校防災教室: 10/16(月) 全生徒を対象に避難所運営ゲーム(Doはぐ)及び段ボールベッド組立体験を実施 ・小学校防災教室: 12/20(水) 小学校5年生を対象に避難所運営ゲーム(Doはぐ)及び段ボールベッド組立体験を実施 ・住民を対象とした防災訓練: 11/24(金) 第一自治区の住民を対象に避難訓練、火災訓練、段ボールベッド及び災害用マンホールトイレの組立体験を実施 	<p>防災訓練については、対象地域の自治区長と実施内容や方法等を検討した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での防災教室の実施 ・住民を対象とした防災避難訓練 	防災避難訓練の具体的な内容や開催方法等については、参加地域の自治区長及び関係者と打ち合わせを実施予定。

■令和5年度 取組内容

- ・小学校及び中学校において防災教室を実施
- ・第一自治区の住民を対象に防災避難訓練を実施

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・小学校は5年生(22名)を対象に避難所運営訓練(Doはぐ)及び段ボールベッドの組立体験を実施。
- ・中学校は全校生徒による抜き打ち避難訓練の終了後に、避難所運営訓練(Doはぐ)及び段ボールベッドの組立体験を実施。
各防災教室を通じて、防災の知識を深めた。



- ・第一自治区において、石狩川の氾濫を想定した防災避難訓練を実施。防災無線において、対象地域に避難指示を発令し、避難所への避難を行った。
避難訓練後には、消防署員指導のもと火災避難訓練を実施。また、段ボールベッド組立体験や警察署員による防災講話を聞くなどして、防災意識の向上を図った。



令和6年度についても、小中学校での防災教室及び地域住民参加の防災避難訓練を行う予定である。
防災について理解を深め、防災意識の向上を図っていきたい。

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

	R5年度取り組み内容	住民(地域の防災リーダー等)参加状況	次年度以降の取り組み(予定)	住民(地域の防災リーダー等)参加状況
月形町	氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策			
	被害対象を減少させるための対策			
	<p>■町内教育施設等に対して防災訓練に協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月14日(木)月形中学で実施された防災学習において防災講話を実施 ・10月13日(金)月形刑務所との合同防災訓練において備蓄食料の提供及び防災講話を実施 ・11月10日(金)月形小学校で実施された総合学習において防災講話及び防災備蓄品の展示・実習を実施 ・11月12日(日)市南行政区が企画した防災訓練に防災備蓄品の展示、備蓄食料等の提供を実施 <p>■防災訓練を計画(細部時期未定)</p> <p>■タイムライン見直しを予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月形町タイムラインについて前回の読み合わせ事項を反映して内容を逐次修正 		<ul style="list-style-type: none"> ・町内教育施設及び町内行政区に対して防災講話及び防災に関する内容について継続的に実施 ・防災訓練の実施 ・継続したタイムラインの修正 	

■令和5年度 取組内容

- ・ R5年度においては、継続実施している、町内教育施設等に対する防災訓練への協力により被害の軽減、早期復旧・復興の為の対策を図った。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

月形中学校での防災学習



月形刑務所での防災訓練



月形小学校での防災学習



市南行政区での防災訓練



次年度に向けた予定

- ・町内教育施設及び町内行政区に対して防災講話及び防災に関する内容について継続的に実施
- ・防災訓練の実施
- ・継続したタイムラインの修正

札幌管区気象台

流域治水プロジェクトに基づく各種対策のフォローアップ

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

	R5年度取り組み内容	次年度以降の取り組み(予定)
気象台	氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策 【札幌管区気象台】	【札幌管区気象台】
	被害対象を減少させるための対策 【札幌管区気象台】	【札幌管区気象台】
	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 【札幌管区気象台】 ①平時における地域防災支援 ・災害発生時等に防災気象情報を有効に利用して被害の軽減を図っていただくために、気象防災ワークショップや講演、懇談などをとおして、防災気象情報の利活用に関する普及・啓発を実施した。 ・気象防災ワークショップを1回実施し、3市町(岩見沢市・三笠市・月形町)からの参加を得た。 ・空知総合振興局、石狩振興局及び関係する4市村(新篠津村・岩見沢市・美唄市・三笠市)と、個別の懇談を実施した。未実施の月形町についても、年度内に実施する予定である。 ②災害発生時、または発生が見込まれる場合の地域防災支援 ・大雨時に、警報・注意報など、適時的確な防災気象情報の発信を行った。 ・8月4日の大雨事例について、美唄市と振り返りを実施した。 ・電話による自治体からの問い合わせに対して、のべ39回の気象解説を実施した。	【札幌管区気象台】 ①平時における地域防災支援 令和5年度と同様に、気象防災ワークショップの実施や講演などをとおして、防災気象情報の利活用に関する普及・啓発の活動を一層推し進める。 ②災害発生時、または発生が見込まれる場合の地域防災支援 令和5年度の取り組みに加え、迅速なJETT(気象庁防災対応支援チーム)派遣による詳細な気象解説や、ホットラインによる防災対応への助言を行うなど、状況に応じた積極的な防災対応支援を行う。

流域治水プロジェクトに基づく各種対策の概要について

■令和5年度 取組内容【被害の軽減、早期復旧・復興のための対策】

①平時における地域防災支援

- ・気象防災ワークショップの実施、防災講座や「一日防災学校」での講話などをとおし、防災気象情報の利活用に関する普及・啓発活動に取り組んだ。
- ・空知総合振興局、石狩振興局及び関係市町村との個別懇談を実施した。

②災害発生時、または発生が見込まれる場合の地域防災支援

- ・適時・的確な防災気象情報の発表を行った。
- ・大雨事例について、事後に関係市町と振り返りを実施した。
- ・電話による自治体からの問合せに対して、隨時気象解説を実施した。

札幌管区気象台の地域防災支援の取り組み

・地域毎の災害特性を踏まえた人材配置による「担当チーム」を編成。
担当チームの常設により、市町村と緊密な連携関係を構築。



気象防災ワークショップの推進

- ・市町村等の防災担当者が防災気象情報を活用して、避難情報の発令など災害発生時の市町村の防災対応を疑似体験。
- ・避難情報の迅速な発令検討判断や伝達等ができるように。



積極的なJETT派遣やホットラインの実施

- ・気象解説等のため積極的にJETTを派遣



- ・ホットラインによる首長への助言を実施



「振り返り」の業務改善への活用

- ・災害時等の対応を振り返り、平時・緊急時の業務へフィードバック



■令和6年度 取組内容：「①平時における地域防災支援」として、令和5年度と同様に、気象防災ワークショップの実施や講演などをとおして、防災気象情報の利活用に関する普及・啓発の活動を一層推し進める。また、「②災害発生時、または発生が見込まれる場合の地域防災支援」として、令和5年度の取り組みに加え、迅速なJETT（気象庁防災対応支援チーム）派遣による詳細な気象解説や、ホットラインによる防災対応への助言を行うなど、状況に応じた積極的な防災対応支援を行う。

空知森林管理署

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

	R5年度取り組み内容	次年度以降の取り組み(予定)
空知森林 管理署	<p>氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策</p> <p>【森林整備】 ・夕張市外国有林で間伐等による森林整備を実施</p>	<p>【森林整備】 ・引き続き夕張市外国有林で間伐等による森林整備を実施</p> <p>【治山対策】 ・西桂沢治山工事(流路工105m)</p>
	被害対象を減少させるための対策	
	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	

■令和5年度 取組内容

- ・ R5年度においては、森林整備事業(間伐)を実施し「流域治水」の推進を図った。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策



森林整備事業(間伐)

次年度に向けては、森林整備事業及び渓間工(流路工)を実施し森林機能の向上に努める。

東北北海道整備局
北海道水源林整備事務所

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

森林整備センター		R5年度取り組み内容	次年度以降の取り組み(予定)
	氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策	・流域治水に資する除間伐等の森林整備を実施	・次年度以降も流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施
	被害対象を減少させるための対策		
	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策		

■令和5年度 取組内容

- ・流域治水に資する除間伐等の森林整備を実施

氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策



空知総合振興局 産業振興部
・整備課
・東部耕地出張所

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

	R5年度取り組み内容	次年度以降の取り組み(予定)
空知総合 振興局	<p>氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策</p> <p>【整備課・東部耕地出張所】 ・排水施設等の農業用水利施設整備や区画整理工事など、農業農村整備事業の実施</p>	<p>【整備課・東部耕地出張所】 ・排水施設等の農業用水利施設整備や区画整理工事など、農業農村整備事業の実施</p>
	被害対象を減少させるための対策	
	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	

■令和5年度 取組内容

- 農業農村整備事業により排水施設等の農業用水利施設整備や区画整理などを実施

氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策

農業用水利施設の活用

農業用水利施設の整備

水田の貯留機能向上

区画整理



令和6年度も引き続き、農業農村整備事業による排水施設等の農業用水利施設整備や区画整理などを推進

空知総合振興局 産業振興部

- ・林務課
- ・森林室

石狩振興局 産業振興課

- ・林務課

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

	R5年度取り組み内容	次年度以降の取り組み(予定)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策	<p>【林務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美唄地区保育工事(美唄市)を実施 ・森林整備事業(間伐、植栽等)を岩見沢市、美唄市、三笠市、月形町にて実施 <p>【森林室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毛陽町保育工事(岩見沢市)を実施 ・東美唄保育工事(美唄市)を実施 ・ポンベツ保育工事(月形町)を実施 ・幌内本沢地区保安林総合改良工事(三笠市)を実施 ・空知団地育林事業を岩見沢市、美唄市、三笠市、月形町にて実施 ・岩見沢地区ほか森林整備事業を岩見沢市、三笠市にて実施 	<p>【林務課】【森林室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の荒廃状況や市町村からの要望により計画的に治山事業を実施 ・森林整備事業(間伐、植栽等)の計画的な実施
空知総合振興局	被害対象を減少させるための対策	
	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

	R5年度取り組み内容	次年度以降の取り組み(予定)
石狩 振興局	<p>氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策</p> <p>【林務課】 ・西原保育工事(新篠津村)を実施</p>	<p>【林務課】 ・森林の荒廃状況や市町村からの要望により計画的に治山事業を実施 ・森林整備事業(間伐、植栽等)の計画的な実施</p>
	被害対象を減少させるための対策	
	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	

■令和5年度 取組内容

- ・北海道において治山事業により渓間工(治山ダム等)、山腹工(法枠工等)、森林整備(間伐、植栽等)の実施
- ・北海道、各市町村等において森林整備事業(間伐・植栽等)を実施

氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策



渓間工(治山ダム等)の実施状況



植栽の実施状況



山腹工(法枠工等)の実施状況



間伐の実施状況

- ・治山事業について、継続事業・保育事業については継続的に実施。また森林の荒廃状況や市町村からの要望により計画的に事業を実施。
- ・各市町村等において森林整備(間伐・植栽等)を計画的に実施。

空知総合振興局
札幌建設管理部

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

	R5年度取り組み内容	次年度以降の取り組み(予定)
空知総合振興局	<p>氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策</p> <p>【建設管理部】</p> <ul style="list-style-type: none">利根別川の河道掘削等を実施東利根別川の河道掘削等を実施ポントネ川の河道掘削等を実施美唄ダムの事前放流(未放流)札比内川砂防施設整備を実施住吉の沢川砂防施設整備に向けた調査設計等	<p>【建設管理部】</p> <ul style="list-style-type: none">利根別川の河道掘削等を継続東利根別川の河道掘削等を継続実施ポントネ川の遊水地整備を実施美唄ダムの事前放流札比内川砂防施設整備を継続実施砂防関係施設の調査設計等(住吉の沢川等)を継続実施
	被害対象を減少させるための対策	
	<p>被害の軽減、早期復旧・復興のための対策</p> <p>【建設管理部】</p> <ul style="list-style-type: none">水害対応タイムラインの運用 当別川・美唄川・幌向川・利根別川・東利根別川	<p>【建設管理部】</p> <ul style="list-style-type: none">水害対応タイムラインの継続運用

■令和5年度 取組内容

- ・ R5年度においては、継続実施している月寒川等の河道掘削、砂防関係施設の調査設計等を実施し、「流域治水」の推進を図った。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策



・河道掘削(月寒川)

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



・防災意識の啓発活動
(河川改修の出前講座:本通小学校)

次年度に向けた予定 など

- ・次年度以降も引き続き、継続実施している月寒川等の河道掘削、砂防関係施設の調査設計等を実施する。

札幌開発建設部

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【幾春別川外地域部会】各種対策のフォローアップ(取組状況整理表)

	R5年度取り組み内容	次年度以降の取り組み(予定)
札幌開発建設部	氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策 ・石狩川河道掘削、石狩川堤防整備、北村遊水地整備、幾春別川総合開発事業、直轄管理ダムにおける事前放流等の実施・体制構築、内水排除受入量の増大を目的とした樹木伐採等	引き続き令和5年度の取組を継続実施
	被害対象を減少させるための対策 ・水害リスク情報(リスクマップ)の検討、トラクターポンプを用いた緊急内水排除のための水防活動ヤードの造成等	引き続き令和5年度の取組を継続実施
	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水防教育、防災意識の啓発活動、河道掘削土を利用した農機具避難ヤードの造成等	引き続き令和5年度の取組を継続実施

■令和5年度 取組内容

- R5年度においては、石狩川の河道掘削・堤防整備、北村遊水地の整備、幾春別川総合開発事業、内水排除受入量の増大を目的とした樹木伐採、水害リスク(リスクマップ)の検討、水防活動ヤード・農機具避難ヤードの造成、幾春別川外地域部会の各市町村と重要水防箇所の合同巡視を実施し、「流域治水」を推進。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らす為の対策



河道掘削(石狩川)



北村遊水地整備

内水排除受入量の増大を目的とした樹木伐採

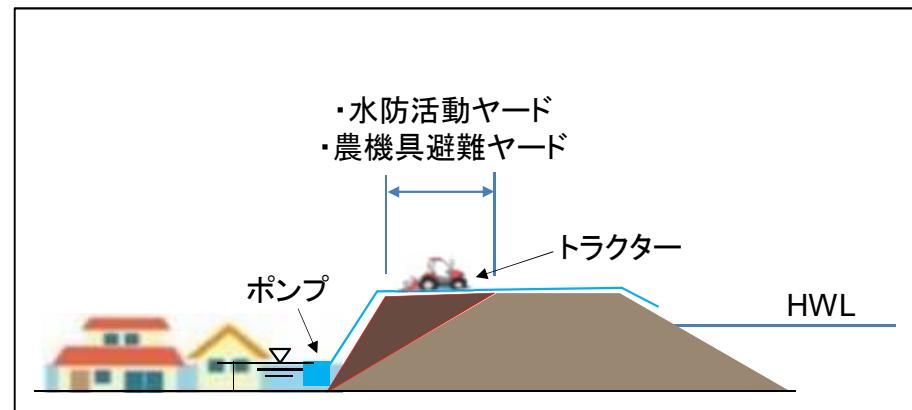


施工前



施工後

被害対象を減少させるための対策



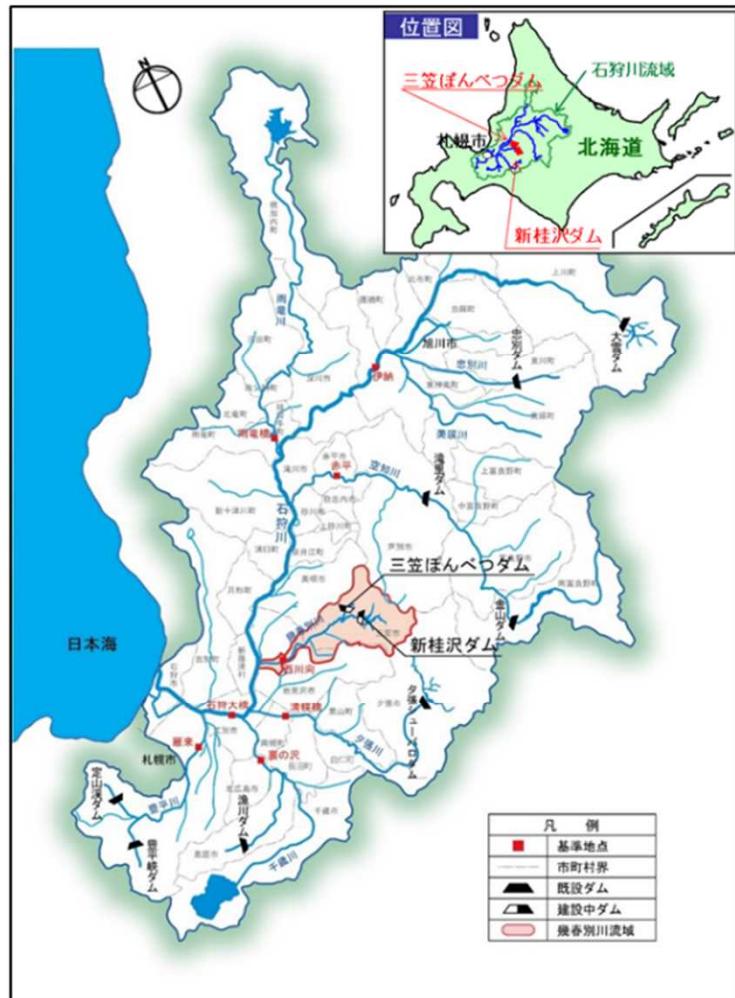
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



重要水防箇所合同巡視(美唄市地区)

■R6年度取組予定

引き続き令和5年度の取組を継続実施。



- 目的**
- ・新桂沢ダム（直轄ダム初の既設ダム同軸嵩上げ）
 - 洪水調節
 - 流水の正常な機能の維持
 - 水道 [岩見沢市・美唄市・三笠市]
 - 工業用水 [石狩湾新港地域]
 - 発電
 - ・三笠ぼんべつダム（直轄ダム初の流水型の台形CSGダム）
 - 洪水調節

新桂沢ダム：直轄ダム初の同軸嵩上げでダム再生を実施

貯水容量増大

約1.6倍

新桂沢ダム	総貯水容量 14,730万m ³
桂沢ダム	総貯水容量 9,270万m ³

嵩上げ ↑ 11.9m

新桂沢ダム

桂沢ダム

11.9m

新桂沢ダムは既設桂沢ダムを11.9m嵩上げすることで総貯水容量を約1.6倍へと効率的に増大させるもので、既設ダムの有効活用により環境への負荷も抑制

三笠ぼんべつダム：日本で初めての流水型の台形CSGダム

三笠ぼんべつダム完成予想図

右岸側

左岸側

排砂ゲート上屋

非常用洪水吐

堤体導流壁

付替市道

常用洪水吐口部

□ダム高: 53.0m
□総貯水容量: 862万m³

42

「CSG」とは、「コンクリート」のように材料を指す用語で、Cemented Sand and Gravelの頭文字で表し、「セメントで固めた砂礫」を意味する

台形CSGダム概念図

ダム天端

洪水時最高水位

保護コンクリート

CSG※

堤体内部をCSGで築造し、堤体表面をコンクリートで覆う構造。

幾春別川総合開発事業

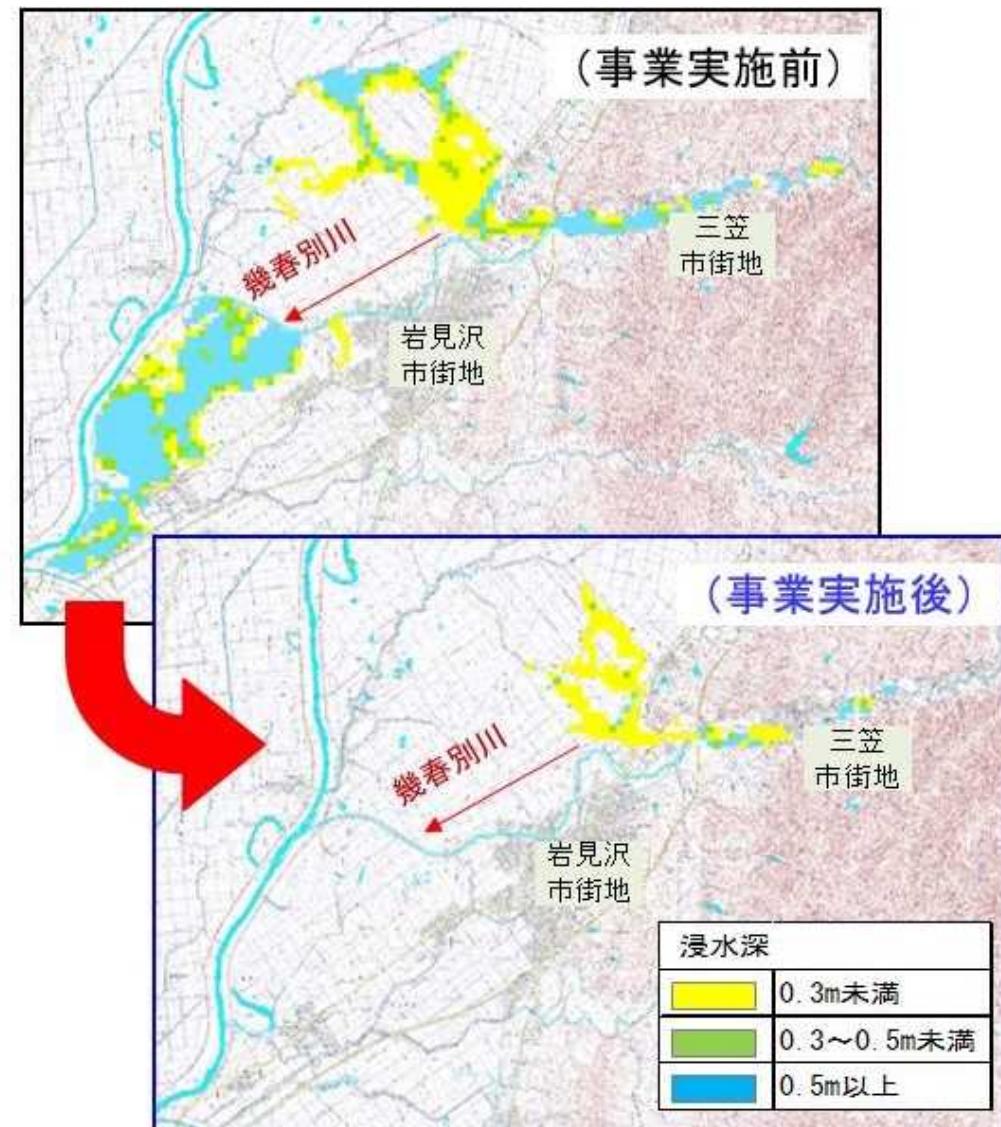
幾春別川をはじめとした石狩川下流地域において、年超過確率1/100の規模の洪水(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100(1%))を想定した場合に氾濫の恐れがある区域は、札幌市、江別市、岩見沢市、三笠市をはじめとした9市3町1村が含まれており、約250万人が暮らしています。また、水稻、小麦、小豆、大豆、たまねぎ、牧草などを栽培する農業も盛んです。

また、洪水調節以外にも「流水の正常な機能の維持」「水道用水の供給」「工業用水の供給」「発電」の4つの目的があります。また、現在の桂沢ダムから引き続いて灌漑(農業用水の供給)の役割も担います。

幾春別川総合開発事業により治水効果が見込まれる地域

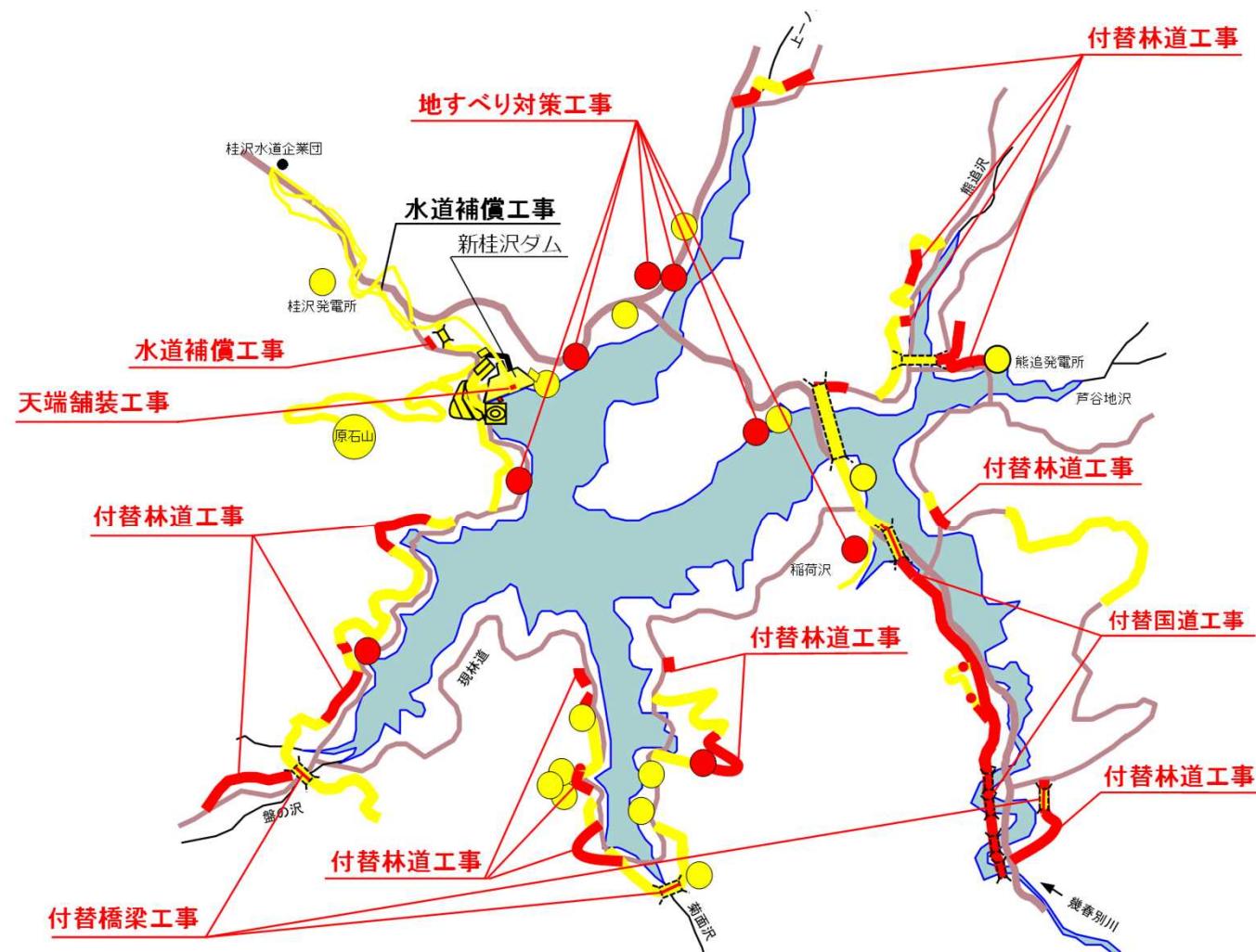


昭和56年8月上旬の大雨と同様の降雨による洪水の想定浸水範囲



幾春別川総合開発事業進捗状況(新桂沢ダム)

凡例	
	現道
	実施済み
	令和5年度実施



新桂沢ダムの主な工事概要



新桂沢ダム本体工事実施状況(R3.6)



新桂沢ダム試験湛水状況(R5.12)

幾春別川総合開発事業進捗状況(三笠ぽんべつダム)

凡例	
■	現道
■	実施済み
■	令和5年実施
■	令和6年以降

※地すべり対策●は、調査中の箇所を含む



三笠ぽんべつダム 工事実施状況(R5.11)

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクトの取組みについて

グリーンインフラの取り組み紹介

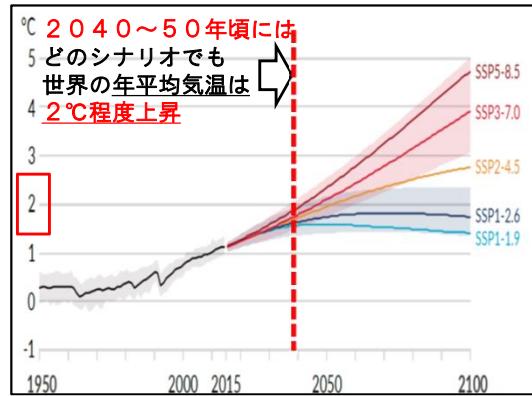
※今年度直轄事業として実施したグリーンインフラの取り組みについてご紹介させていただきます。

流域治水プロジェクト2.0

～気候変動下で水害と共生する社会をデザインする～

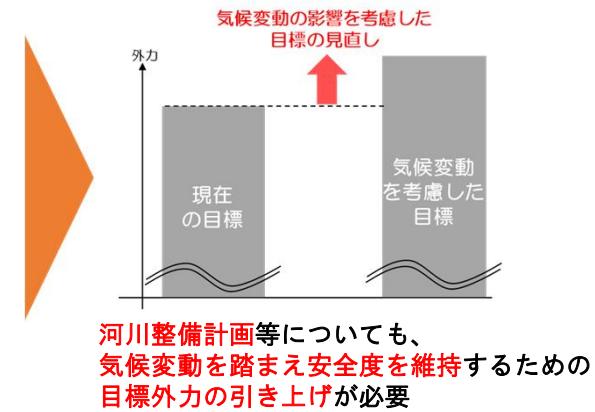
■現状・課題

- 気候変動による気温上昇を2°Cに抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍（北海道では約1.15倍）、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算され、
現行の治水対策が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの関心の高まりに伴い治水機能以外の多面的な機能も考慮する必要
- インフラDX等の技術の進展



気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)		
	全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
2°C上昇相当	約1.1倍(約1.15倍*)	約1.2倍	約2倍

※流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は一級水系の河川整備の基本とする洪水規模(1/100～1/200)の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



■流域治水プロジェクト2.0のフレームワーク～気候変動下で水害と共生するための3つの強化～

“量”の強化

- ◆ 気候変動を踏まえた治水計画への見直し（2°C上昇下でも目標安全度維持）
- ◆ 流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進
- ◆ あらゆる治水対策の総動員

“質”的強化

- ◆ 溢れることも考慮した減災対策の推進
- ◆ 多面的機能を活用した治水対策の推進

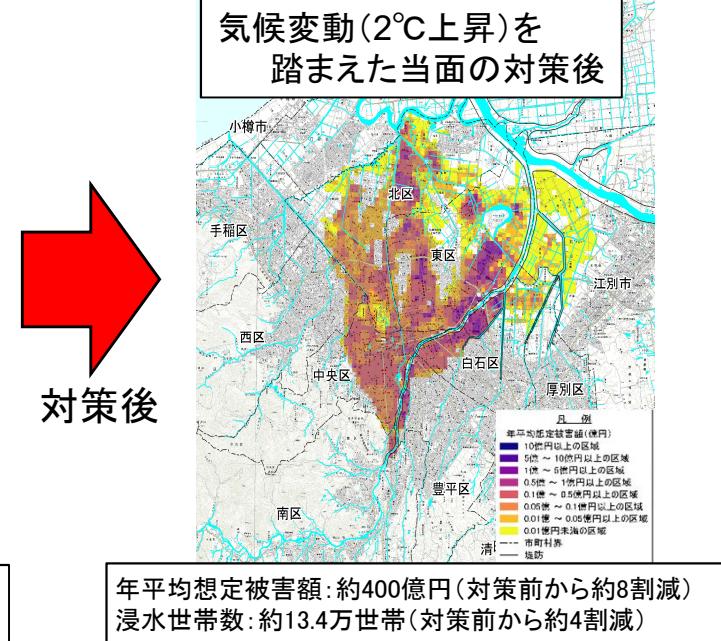
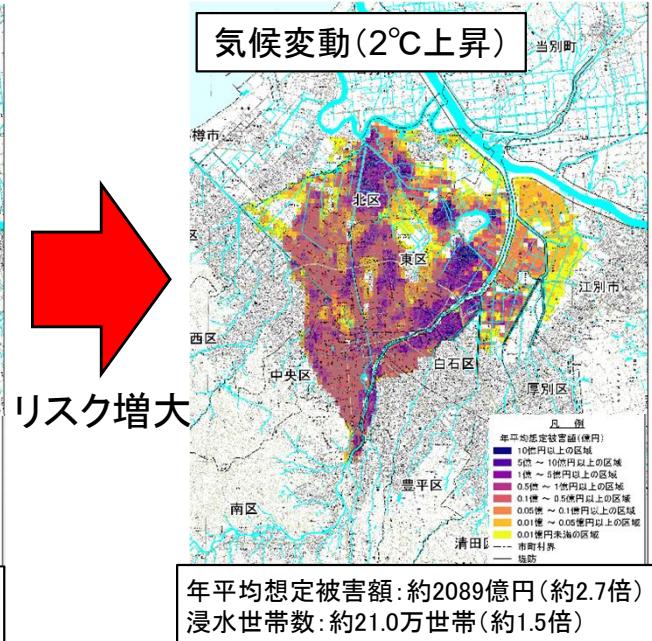
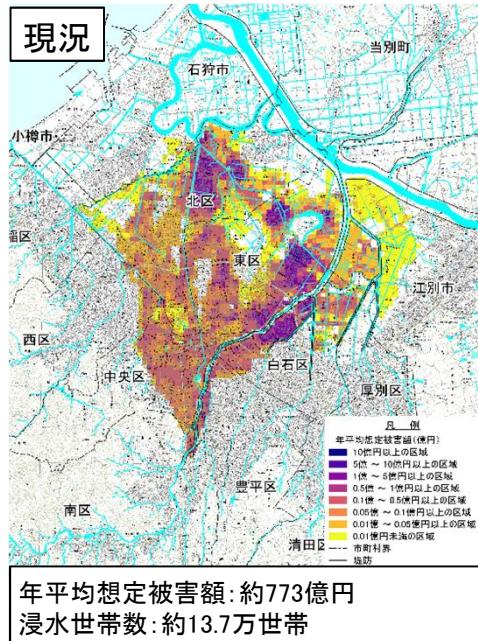
“手段”的強化

- ◆ 既存ストックの徹底活用
- ◆ 民間資金等の活用
- ◆ インフラDX等における新技術の活用

気候変動に伴う水害リスクの増大とその対策

○気候変動(2°C上昇)により、豊平川流域における水害リスクは年平均想定被害額が約2,089億円(現況の約2.7倍)になり、浸水するおそれのある世帯数が約21万世帯(現況の約1.5倍)になると想定されるが、対策の実施により、現行河川整備計画での目標(戦後最大洪水である昭和56年8月洪水規模)と同程度の安全度を概ね確保し、年平均想定被害額を約400億円、浸水世帯数を約13.4万世帯に軽減させる。

■ 気候変動に伴う水害リスクの増大



【目標】
KPI: 浸水世帯数
約21.0万世帯
⇒ 約13.4万世帯

■ 水害リスクを踏まえた各主体の主な対策

気候変動による水害リスク増大に対する被害の軽減

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	流域内総資産約25兆円の保護	河道掘削: 約40万m ³ 洪水調節機能の増強: 豊平川上流	概ね30年
	札幌市	浸水の防止・軽減	雨水貯留浸透施設	
被害の軽減・早期復旧・復興	国	被害の軽減 避難をしやすくする	リスクマップの作成 タイムラインの普及促進	概ね5年
	札幌市	避難をしやすくする	内外水のハザードマップの作成等	

※ 極端事象を含めた様々な降雨パターンによる被害の可能性を表現するため、気候変動のアンサンブルデータ過去実験2,037ケース(現況)、2°C上昇2,212ケース(気候変動)の全破堤地点での氾濫計算結果をもとに、各メッシュ(250m × 250m)毎に試算し、年平均想定被害額及び浸水世帯数(水深50cm以上)をリスクとして算出したものである。

例) 年平均想定被害額の算出方法

氾濫計算により生じた被害額の合計(現況だと2,037洪水分) ÷ データ数(現況だと2,037)

※ 豊平川の直轄区間のみの試算であり、北海道区間の氾濫や内水氾濫は考慮されていない。

※ 上記の他、特定都市河川制度等の活用に向けた検討を実施し、上記対策を推進

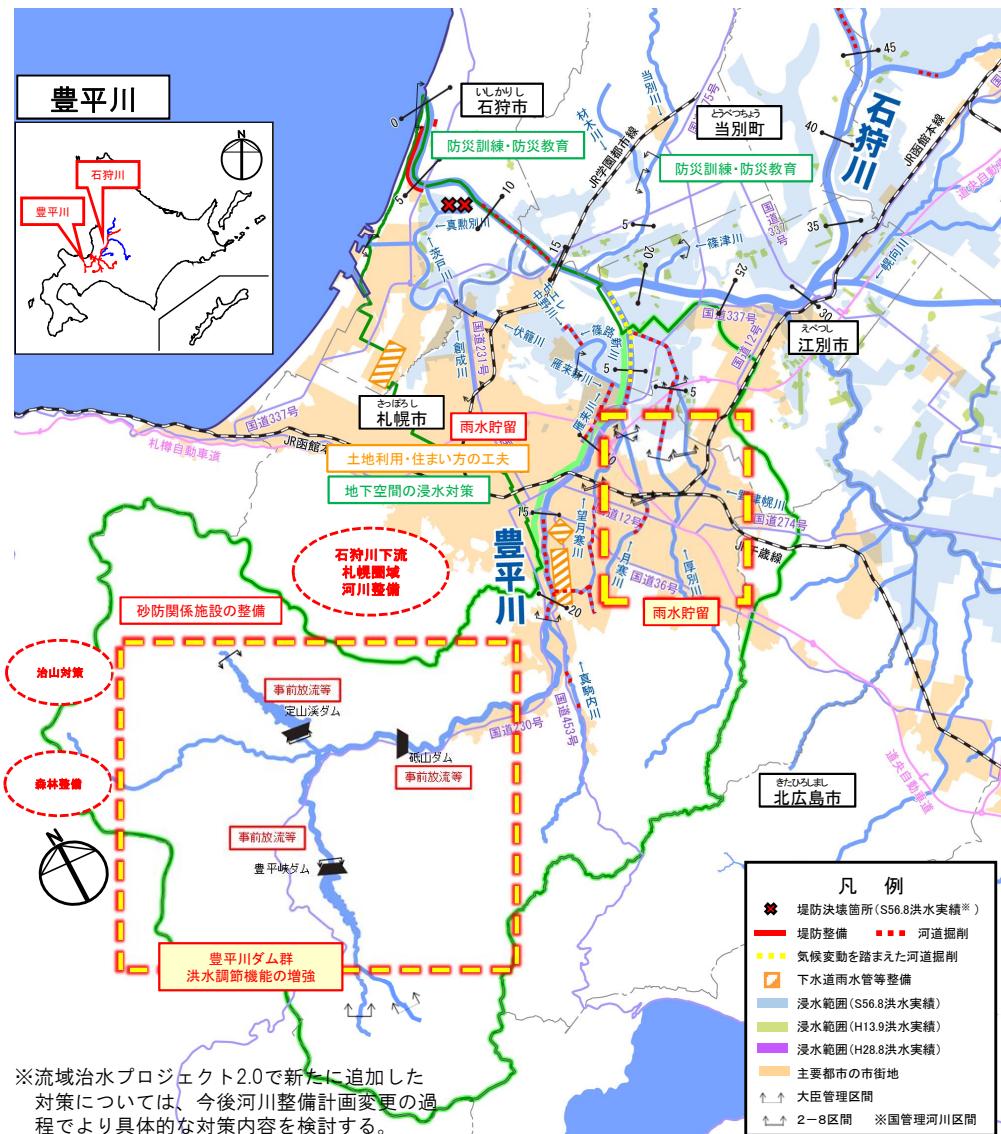
※ 流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画変更の過程でより具体的な対策内容を検討する。

豊平川流域治水プロジェクト2.0 【位置図】

～都市化の進む流域において総合的な治水対策を一層推進し、浸水被害を軽減～

R5.8更新(2.0策定)

- 気候変動の影響により平成30年西日本豪雨等が全国各地で甚大な被害をもたらしたことを踏まえ、道都札幌市を擁し、社会・経済・文化の基盤である石狩川流域においてもより一層事前防災対策を進める必要がある。国管理区間においては、気候変動後（ 2°C 上昇）においても現行河川整備計画での目標（戦後最大洪水である昭和56年8月洪水規模）と同程度の治水安全度を概ね確保し、洪水による災害の発生の防止又は軽減を図る。
 - 豊平川は人口や資産の集積した札幌市市街中心部を貫流していることから、気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化、流域の土地利用の変遷等を踏まえ、洪水調節施設等の増強や、河道の安定に配慮した河道断面の増大等の洪水氾濫対策に加え、特定都市河川制度等の活用に向けた検討を行い、更なる治水対策を推進する。



■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・被害を軽減させる取り組みの推進
 - ・早期復旧・復興のための対策
 - ・BIM/CIM適用による三次元モデルの積極的な活用
 - ・まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討
 - ・地下空間の浸水対策
 - ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保



内水氾濫と洪水の浸水想定区域図を同時に確認できる
札幌市浸水ハザードマップ（札幌市）



流域治水に資する施設について管理者が連携した合同見学会
(札幌市 札幌建設管理部 札幌開発建設部)



- ・地下街近くの下水道水位をリアルタイムで閲覧できる「札幌市下水道水位情報システム」を構築し、地下街の事業者へ周知

水位情報の提供による都心地下施設の浸水被害の軽減（木

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河床掘削、洪水調節機能の增强、豊平川侵食対策、冬季出水に備えた排水機場の無水化、放水路整備 等
 - ・ダムにおける事前放流等の実施、体制構築
 - ・下水道雨水管渠の整備

・雨水貯留浸透施設の整備促進（校庭貯留、調整池の整備等）

- ・旧川や公園・緑地等の保全・活用
 - ・農業水利施設の活用
 - ・土砂災害対策(砂防関係施設の整備)
 - ・治山対策
 - ・森林整備(間伐・植樹等) 等
 - ・インフラDXによる河川管理施設の品質確保と適切な機能維持
 - ・既存ストックの徹底活用

■被害対象を減少させるための対策

- ・水害リスクに応じた土地利用・住まい方の工夫
 - ・まちづくりや防災等の地域計画と一体となった河川防災ステーション等の整備

豊平川流域治水プロジェクト2.0

赤字:R5.8更新(2.0更新)

	気象を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
“量”の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2°C上昇下でも目標安全度維持) <ul style="list-style-type: none"> <具体的な取組> ・豊平川侵食対策 ・砂防関係施設の整備 ・下水道雨水管等の整備 ・河道掘削の推進 ・洪水調節機能の増強 ○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> <具体的な取組> ・治山事業を実施 ・森林整備事業(間伐、植栽等)を実施 ・雨水貯留浸透施設の整備促進 (校庭貯留、調整池の整備等) 		<ul style="list-style-type: none"> ○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2°C上昇下でも目標安全度維持) <ul style="list-style-type: none"> <具体的な取組> ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づく ソフト対策 ○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> <具体的な取組> ・流域治水に資する施設について管理者が連携 した合同見学会
“質”の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○多面的機能を活用した治水対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> <具体的な取組> ・ハイブリッドダムの検討 		<ul style="list-style-type: none"> ○被害を軽減させる取り組みの推進 <ul style="list-style-type: none"> <具体的な取組> ・水害対応タイムラインの運用を推進 ・水防教育、防災意識の啓発活動 ・浸水(内水・洪水)ハザードマップの周知 ・住民参加による防災訓練の実施 ・まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水 リスク情報の検討(水害リスクマップ) ・地下空間の浸水対策 ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作 成促進と避難の実効性確保
“手段”の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○既存ストックの徹底活用 <ul style="list-style-type: none"> <具体的な取組> ・ダムにおける事前放流等の実施・体制構築 ・既存貯留施設等の活用・増強 ・SMART-GrassやAI/Eye Riverの活用による河 川管理施設の品質確保と適切な機能維持 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地利用・住まい方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <具体的な取組> ・地域計画と一緒にした河川防災ステーション等の整備 ・災害危険区域や出水の恐れのある区域を指 定し、床高・基礎構造、便槽高に基準を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○インフラDX等における新技術の活用 <ul style="list-style-type: none"> <具体的な取組> ・下水道水位情報システムの構築 ・河川管理施設の自動化・遠隔化等

※ 上記の他、特定都市河川制度等の活用に向けた検討を実施し、上記対策を推進。

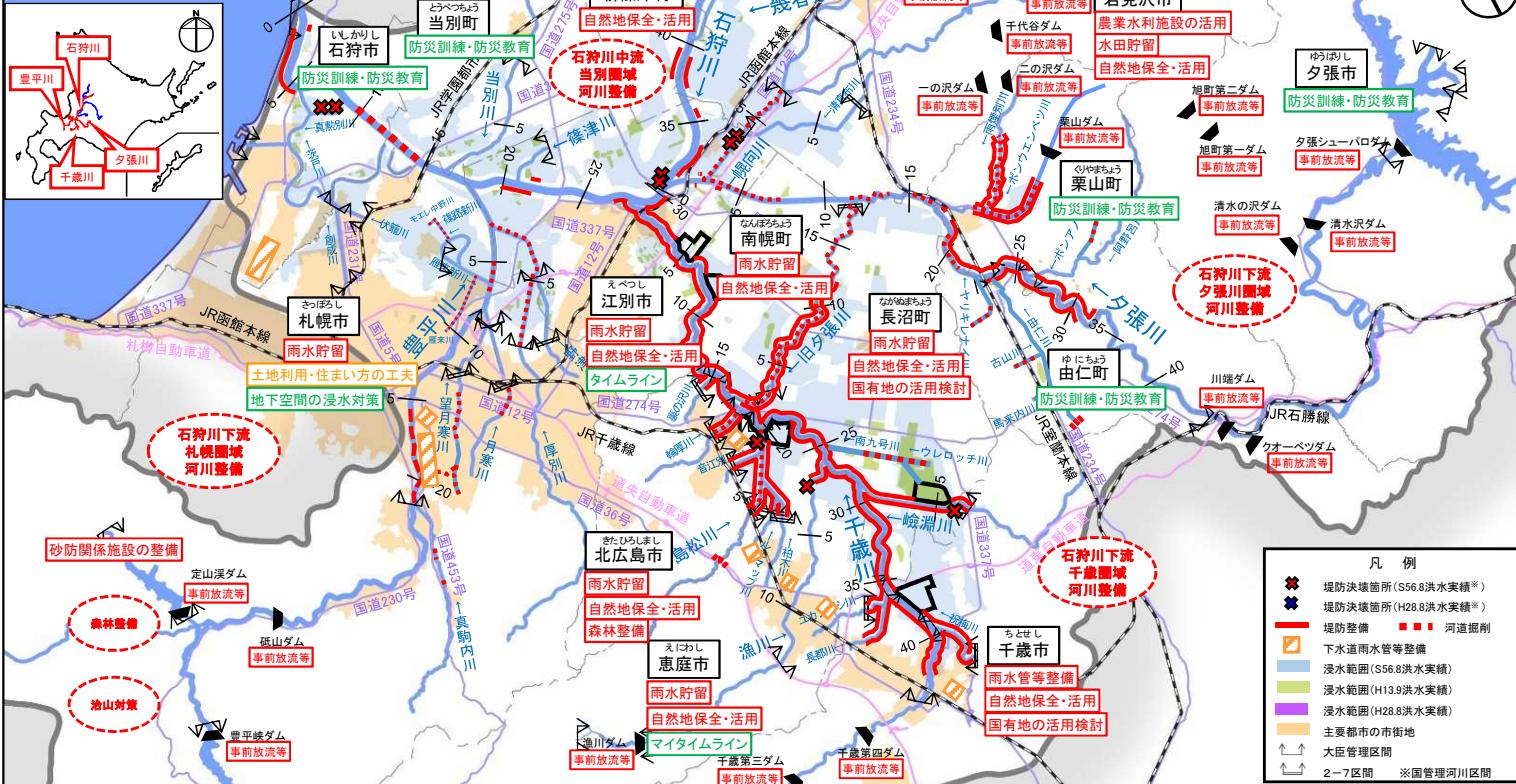
石狩川（下流）水系流域治水プロジェクト【位置図】

～北海道における社会、経済、文化の基盤「石狩川流域」を洪水から守るための治水対策の推進～

[1/4]

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、社会、経済、文化の基盤である石狩川流域においても事前防災対策を進める必要があり、国管理区間においては、石狩川等の堤防が決壊し、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和56年8月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。

①石狩川・豊平川・千歳川・夕張川 (豊平川のみ2.0を参照)



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河床掘削、堤防整備、北村遊水地整備、幾春別川総合開発事業、雨竜川ダム再生事業、堤防強化、冬季出水に備えた排水機場の無水化、放水路整備 等
- ・利水ダム等58ダムにおける事前放流等の実施、体制構築
- ・下水道雨水管等の整備
- ・雨水貯留浸透施設の整備（校庭貯留、調整池の整備等）
- ・自然遊水機能を有する国有地の活用検討
- ・農業水利施設の活用
- ・水田の貯留機能向上
- ・土砂災害対策（砂防関係施設の整備）
- ・治山対策
- ・森林整備（間伐・植樹等）等



校庭貯留
調整池の整備



雨水貯留浸透施設の整備
(千歳市ほか)

公園整備・保全

旧川等の保全

（千歳市、恵庭市、北広島市、江別市、長沼町、南幌町ほか）

グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ

■被害対象を減少させるための対策

- ・水害によるリスクに応じた土地利用・住まい方の工夫
- ・まちづくりや防災等の地域計画と一体となった河川防災ステーション等の整備
- ・まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討



水害リスクに応じた土地利用・住まい方の工夫（札幌市）

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・地下空間の浸水対策
- ・災害に強い斤舎の整備
- ・多面的な防災情報の発信
- ・市民等を対象とした水防教育、防災意識の啓発活動
- ・国・北海道・市が連携した各種タイムラインの普及促進
- ・緊急排水作業の準備計画策定
- ・水害リスク空白域の解消に向けた取組
- ・ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保
- ・防災気象情報の利活用促進 等



地下空間への流入防止の対策
地下空間の浸水対策（札幌市ほか）



1日防災学校の実施（石狩市ほか）



自然遊水機能を有する国有地の活用検討

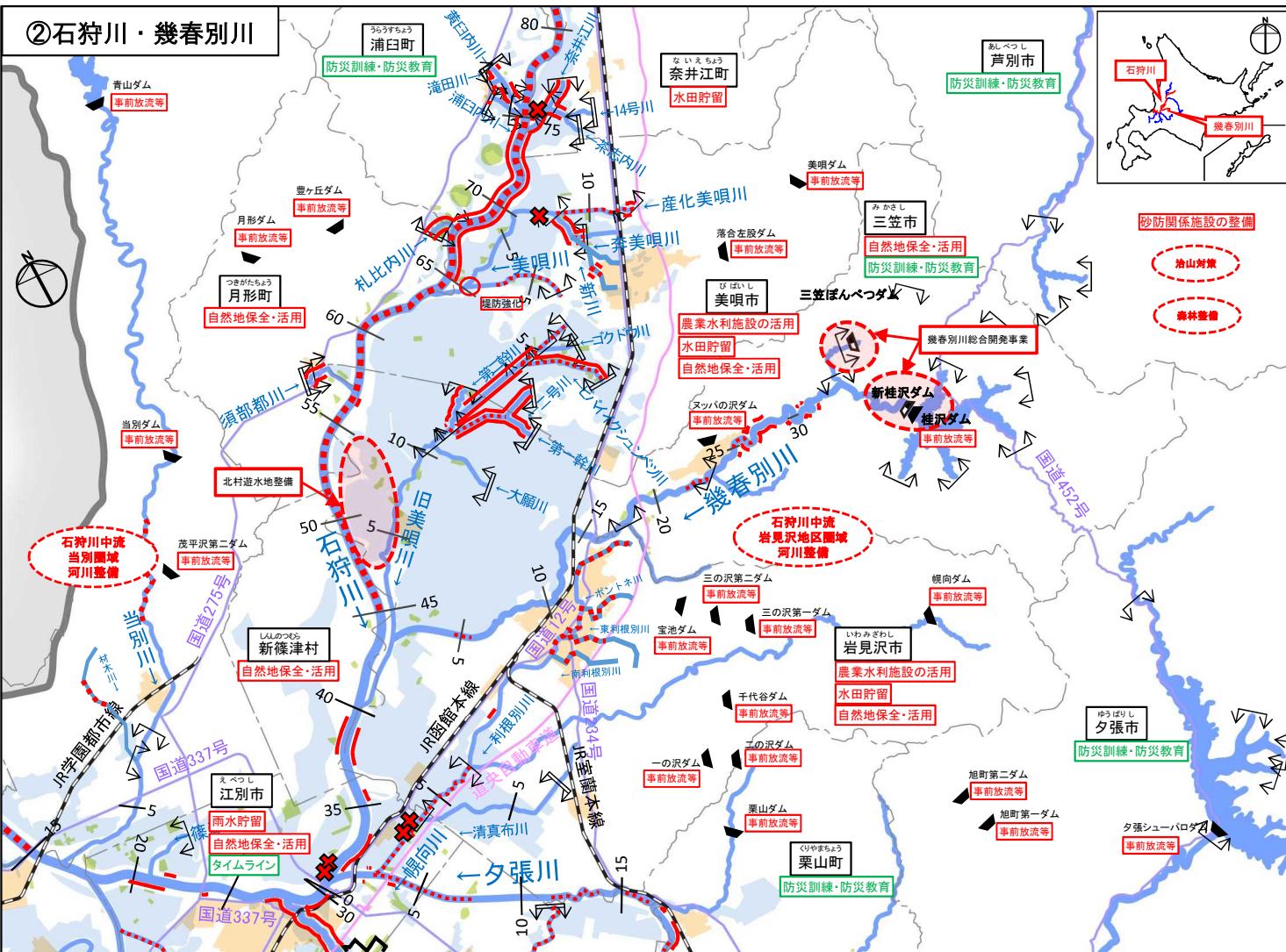
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

石狩川（下流）水系流域治水プロジェクト【位置図】

～北海道における社会、経済、文化の基盤「石狩川流域」を洪水から守るための治水対策の推進～

[2/4]

②石狩川・幾春別川



凡 例

- ✖ 堤防決壊箇所(S56.8洪水実績*)
- ✖ 堤防決壊箇所(H28.8洪水実績*)
- 堤防整備
- 下水道雨水管等整備
- 淹水範囲(S56.8洪水実績)
- 淹水範囲(H13.8洪水実績)
- 淹水範囲(H28.8洪水実績)
- 主要都市の市街地
- ↑ 大臣管轄区間
- ↑ 2-7区間
- ※国管理河川区間

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・地下空間の浸水対策
- ・災害に強い庁舎の整備
- ・多面的な防災情報の発信
- ・市民等を対象とした水防教育、防災意識の啓発活動
- ・国・北海道・市が連携した各種タイムラインの普及促進
- ・緊急排水作業の準備計画策定
- ・水灾害リスク空白域の解消に向けた取組
- ・ハザードマップの周知および住民の水灾害リスクに対する理解促進の取組
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保
- ・防災気象情報の利活用促進

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、堤防整備、北村遊水地整備、幾春別川総合開発事業、雨竜川ダム再生事業、堤防強化、冬季出水に備えた排水機場の無水化、放水路整備 等
- ・利水ダム等58ダムにおける事前放流等の実施、体制構築
- ・下水道雨水管等の整備
- ・雨水貯留浸透施設の整備（校庭貯留、調整池の整備等）
- ・旧川や公園・緑地等の保全・活用
- ・自然遊水機能を有する国有地の活用検討
- ・農業水利施設の活用
- ・水田の貯留機能向上
- ・土砂災害対策（砂防関係施設の整備）
- ・治山対策
- ・森林整備（間伐・植樹等） 等



農業水利施設の活用
(岩見沢市、美唄市ほか)



水田の貯留機能向上
(岩見沢市、美唄市ほか)



公園整備・保全
旧川等の保全



旧川や公園・緑地等の保全・活用
(岩見沢市、美唄市、三笠市、新篠津村、月形町ほか)

■被害対象を減少させるための対策

- ・水災害のリスクに応じた土地利用・住まい方の工夫、
- ・まちづくりや防災等の地域計画と一緒にした河川防災ステーション等の整備
- ・まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討

■グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ



52



市民等を対象とした水防教育、防災意識の啓発活動



自治会の防災学習



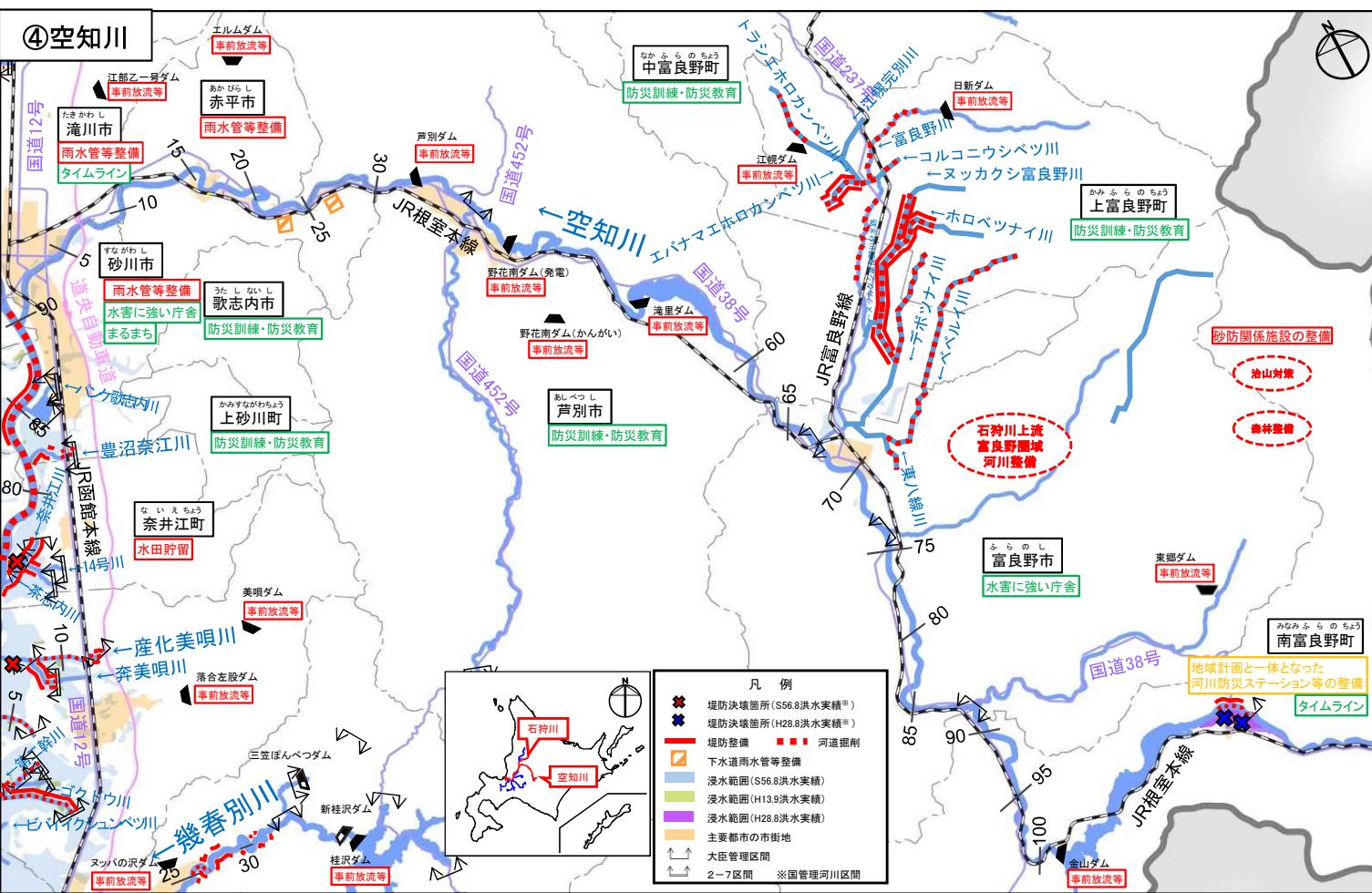
水防訓練及び住民避難訓練

*具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

石狩川（下流）水系流域治水プロジェクト【位置図】

～北海道における社会、経済、文化の基盤「石狩川流域」を洪水から守るための治水対策の推進～

[4/4]



■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 河道掘削、堤防整備、北村遊水地整備、幾春別川総合開発事業、雨竜川ダム再生事業、堤防強化・冬季出水に備えた排水機場の無水化、放水路整備等
- 利水ダム等58ダムにおける事前放流等の実施、体制構築
- 下水道雨水管等の整備
- 雨水貯留浸透施設の整備（校庭貯留、調整池、雨水管の整備等）
- 旧川や公園・綠地等の保全・活用
- 自然遊水機能を有する国有地の活用検討
- 農業水利施設の活用
- 水田の貯留機能向上
- 土砂災害対策（砂防関係施設の整備）
- 治山対策
- 森林整備（間伐・植樹等）等



利水ダム等58ダムにおける事前放流等の実施、体制構築



治山対策（国・北海道）

森林整備（国・北海道ほか）

■被害対象を減少させるための対策

- 水災害のリスクに応じた土地利用・住まい方の工夫
- まちづくりや防災等の地域計画と一体となった河川防災ステーション等の整備
- まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 地下空間の浸水対策
- 災害に強い庁舎の整備
- 多面的な防災情報の発信
- 市民等を対象とした水防教育、防災意識の啓発活動
- 国・北海道・市が連携した各種タイムラインの普及促進
- 緊急排水作業の準備計画策定
- 水災害リスク空白域の解消に向けた取組
- ハザードマップの周知および住民の水災害リスクに対する理解促進の取組
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保
- 防災気象情報の利活用促進 等



災害に強い庁舎の整備
(富良野市ほか)



市民等を対象とした水防教育、
防災意識の啓発活動（芦別市ほか）



国・北海道・市が連携した
各種タイムラインの普及促進（南富良野町ほか）



まちづくりや防災等の地域計画と一体となった
河川防災ステーション等の整備

石狩川（下流）水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～北海道における社会、経済、文化の基盤「石狩川流域」を洪水から守るための治水対策の推進～

●石狩川では、上流部・中流部・下流部の流域全体を俯瞰的にとらえ、地域の産業と住民の安心・安全確保に向けた対応を推進する。特に、北海道における社会・経済・文化の基盤である「石狩川流域」の特徴を踏まえて、河道掘削や堤防整備等に加えて、流水の貯留機能拡大（利水ダム等における事前放流の実施、体制構築）、流域の雨水貯留機能の向上（校庭貯留、調整池、雨水管の整備等）、タイムラインの活用等、国・北海道・流域市町村が一丸となり、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】流域内の人団・資産が集中する下流部等での重大災害の発生を未然に防ぐため、河道掘削・堤防整備等を推進。

【中期】中流・下流部等の河道掘削・堤防整備等を推進するとともに、治水安全度の向上に大きく寄与する抜本的な治水対策として、遊水地やダムの整備を推進。

【中長期】上流部の河道掘削・堤防整備等の推進により、流域内全体の安全度向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域内の人口・資産を守るための河道掘削・堤防整備等	札幌開発建設部、北海道、札幌市	石狩川下流部、豊平川 等		
	治水安全度の向上に大きく寄与する抜本的な治水対策の重点実施(北村遊水地、幾春別川総合開発、雨竜川ダム再生)		石狩川中流部、千歳川 等		
	流域内の浸水被害防止・軽減のための利水ダム等58ダムにおける事前放流等の実施、体制構築		石狩川上流部、雨竜川 等		
	浸水被害の軽減を図り市街地を守る下水道雨水管等の整備	市町村	旧川や公園・緑地などの保全・活用		
	河川への雨水流出の抑制や内水被害軽減のための雨水貯留浸透施設の整備、旧川や公園・緑地などの保全・活用	市町村		国有地の活用検討	
	河川への雨水流出の抑制や内水被害軽減のための遊水機能を有する国有地の活用検討	札幌開発建設部、市町村			水田貯留機能向上の促進
	湛水被害の軽減に貢献する食料安定生産のための農業施設整備等	札幌開発建設部、旭川開発建設部、北海道、市町村			砂防関係施設の整備
	市街地等を土砂・洪水氾濫から守る砂防関係施設の整備	札幌開発建設部、北海道			治山施設等の整備
	山地災害から流域を守る治山対策	北海道森林管理局、北海道			植栽・間伐等の森林整備の実施
	森林土壤等の保水力の強化や土砂流出量の抑制のための森林整備	北海道森林管理局、森林整備センター、北海道、市町村 等			
被害対象を減少させるための対策	水灾害のリスクに応じた土地利用・住まいの工夫	札幌市			防災ステーション等の整備
	まちづくりや防災等の地域計画と一体となった河川防災ステーション等の整備	札幌開発建設部、市町村	浸水想定情報提供検討		
	まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討	札幌開発建設部		タイムラインの普及促進、災害に強い庁舎の整備、防災気象情報の利活用促進 等	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	被害を軽減させる取り組みの推進	札幌開発建設部、気象台、北海道市町村		緊急排水作業準備計画検討、緊急排水作業準備計画策定	
	早期復旧・復興のための対策	札幌開発建設部、北海道、市町村			
グリーンインフラの取り組み	湿原環境の再生	札幌開発建設部、南幌町 等	幌向地区自然再生 次期、自然再生候補地検討		
	大型水鳥等の採餌場、休憩地等の生息・生育環境(湿地)創出	札幌開発建設部、長沼町 等	生態系ネットワークの形成		
	砂川地区かわまちづくり	札幌開発建設部、砂川市	砂川地区かわまちづくり		
	恵庭地区かわまちづくり	札幌開発建設部、恵庭市	恵庭地区かわまちづくり		
	当別川かわまちづくり	北海道、当別町	当別川かわまちづくり		
	利根別川かわまちづくり	北海道、岩見沢市	利根別川かわまちづくり		
	雨竜別川かわまちづくり	北海道、栗山町	雨竜別川かわまちづくり		

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

■事業規模(※石狩川水系全体)

○河川対策
全体事業費 約6,173億円
対策内容 河道掘削、堤防整備、北村遊水地整備、幾春別川総合開発事業、雨竜川ダム再生事業、堤防強化、放水路整備等

○砂防対策
全体事業費 約777億円
対策内容 砂防関係施設の設備等

○下水対策
全体事業費 約93億円
対策内容 下水道雨水管等の整備等

※1：国・北海道・札幌市の河川整備計画の残事業を記載

※2：国・北海道の砂防事業の残事業費を記載

※3：各市における下水道事業計画の残事業費(雨水関連)を記載

石狩川（下流）水系流域治水プロジェクト【位置図】

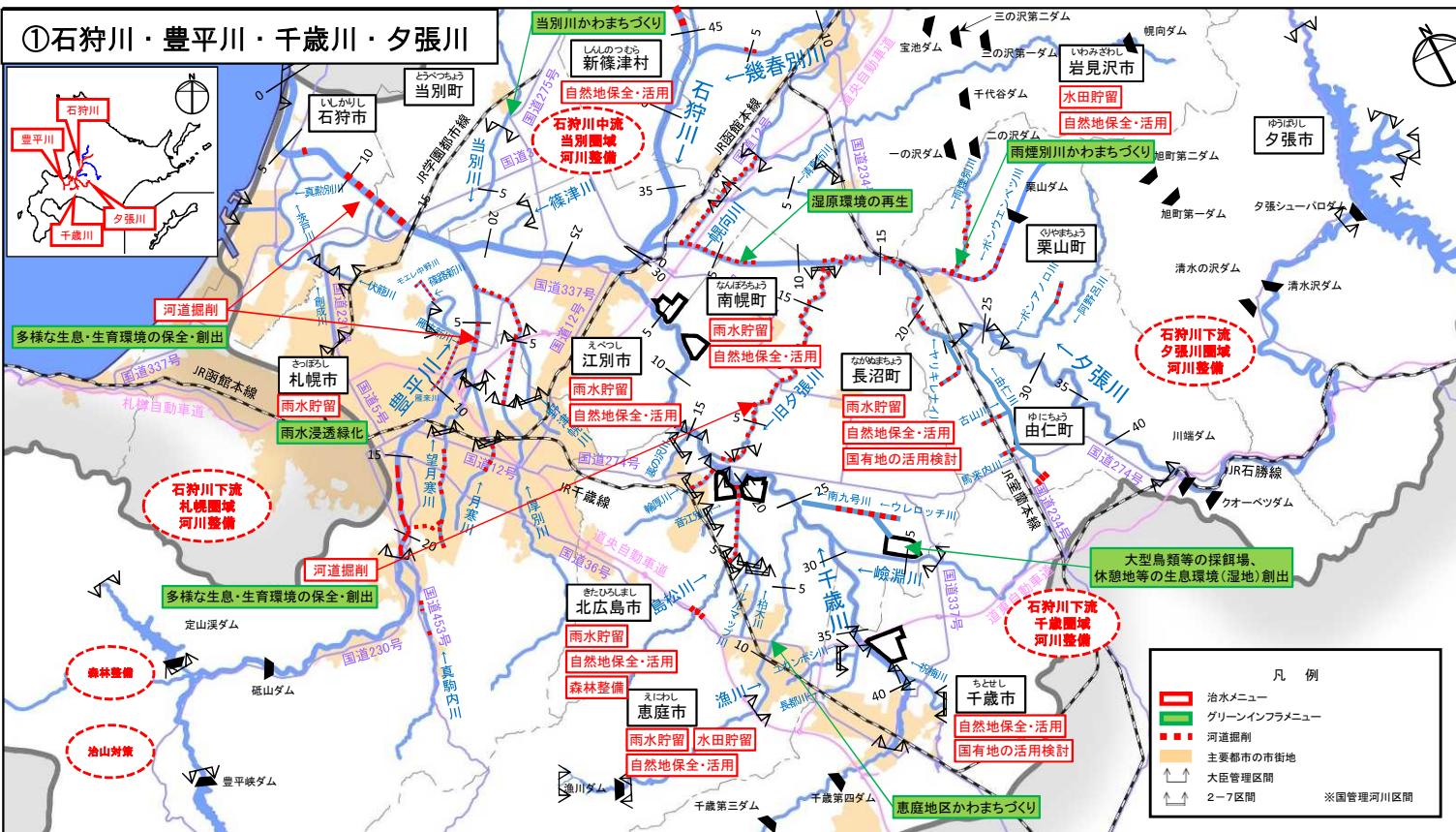
～北海道における社会、経済、文化の基盤「石狩川流域」を洪水から守るための治水対策の推進～

[1/4]

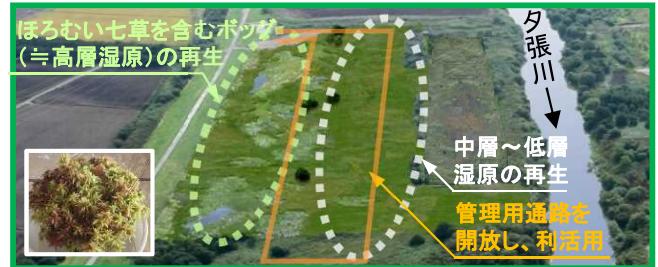
●グリーンインフラの取り組み

『石狩川とその流域の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐための湿地・樹林環境の保全・再生』

- 石狩川下流域には、ラムサール条約の登録湿地である宮島沼を始め大小の旧川及び後背湖沼が残されており、これらは、北海道中央フライウェイと呼ばれる渡り鳥のルート上に位置しているとともに、石狩川本支川とあわせて豊かで多様な動植物が息づき良好な景観が形成されている等、次世代に引き継ぐべき豊かな自然環境が多く存在している。
- 石狩川の河道は昭和30年代に概成し、この頃には流域の特徴である湿原等の自然環境もある程度残されていたことから、昭和30年代の自然環境規模を目標に、中期目標として概ね20年間で生物の生息生育環境の拠点となる湿地・樹林環境を保全・再生するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。



湿性植物を育むボッグ(高層湿原)を中心とした湿原環境の再生(夕張川幌向地区)



大型鳥類等の採餌場、休憩地等の生息環境(湿地)創出



魅力ある水辺空間・賑わいの創出(漁川恵庭地区)



生物の多様な生息・生育環境の保全・創出

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 (詳細省略)
 - 被害対象を減少させるための対策 (詳細省略)
 - 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 (詳細省略)
 - 自然環境の保全・復元などの自然再生、健全な水循環系の回復
 - ・湿原環境の再生、雨水浸透緑化
 - 生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成
 - ・大型鳥類等の採餌場、休憩地等の生息・生育環境(湿地)創出
 - 治水対策における多自然川づくり
 - ・生物の多様な生息・生育環境の保全・創出
 - 魅力ある水辺空間・賑わいの創出 ・かわまちづくり
 - (恵庭地区、砂川地区、当別川、利根別川、雨煙別川)
 - ・水辺の賑わい空間創出
 - 自然環境が有する多様な機能活用の取り組み
 - ・小中学校などにおける河川環境学習

【全域旅游に係る取組】

- ・生物の生息・生育環境として重要な旧川の保全・再生・利活用に向けた検討
 - ・流域特性や土地利用、地域の歴史・文化等との調和を図った石狩川の景観の保全・形成
 - ・魅力的な水辺空間のPRや水辺利活用を促進し、地域振興を図る『かわたびほっかいどう』の推進
 - ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援

石狩川（下流）水系流域治水プロジェクト【位置図】

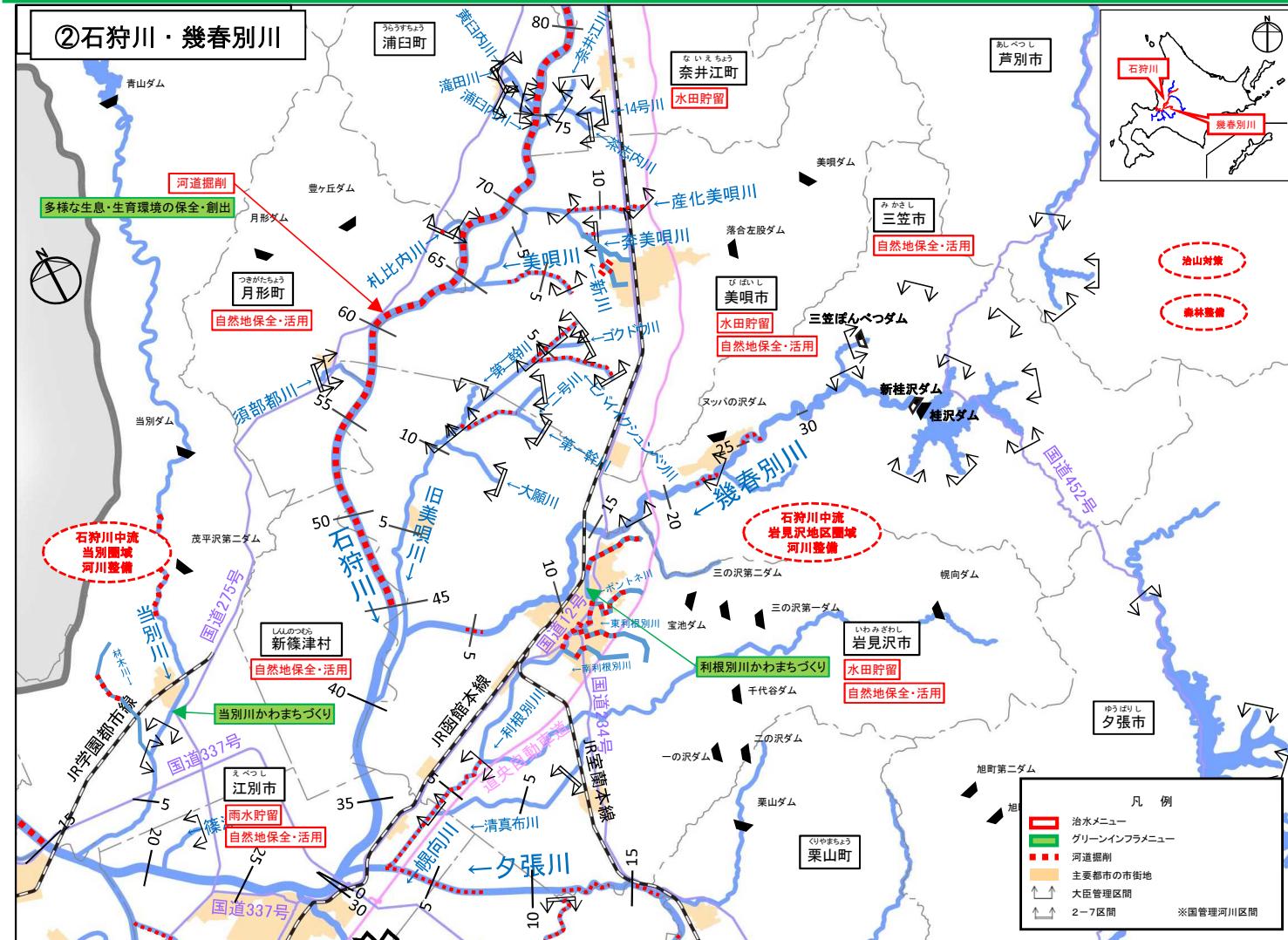
～北海道における社会、経済、文化の基盤「石狩川流域」を洪水から守るための治水対策の推進～

[2/4]

●グリーンインフラの取り組み

『石狩川とその流域の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐための湿地・樹林環境の保全・再生』

②石狩川・幾春別川



■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 (詳細省略)

■被害対象を減少させるための対策 (詳細省略)

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 (詳細省略)

●自然環境の保全・復元などの自然再生、健全な水循環系の回復
・湿原環境の再生、雨水浸透緑化

●生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成
・大型鳥類等の採餌場、休憩地等の生息・生育環境(湿地)創出

●治水対策における多自然川づくり
・生物の多様な生息・生育環境の保全・創出

●魅力ある水辺空間・賑わいの創出
・かわまちづくり
(恵庭地区、砂川地区、当別川、利根別川、雨煙別川)
・水辺の賑わい空間創出

●自然環境が有する多様な機能活用の取り組み
・小中学校などにおける河川環境学習

【全域に係る取組】

・生物の生息・生育環境として重要な旧川の保全・再生・利活用に向けた検討

・流域特性や土地利用、地域の歴史・文化等との調和を図った石狩川の景観の保全・形成

・魅力的な水辺空間のPRや水辺利活用を促進し、地域振興を図る『かわたびほっかいどう』の推進

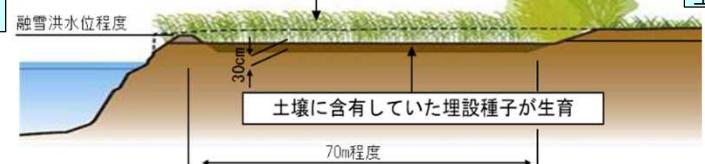
・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

治水対策における多自然川づくりの例
(草地再生)

掘削箇所に融雪が湛水し、水面を形成

渡り鳥や草原性鳥類の生息場の創出



57



- 施工翌年の春期に融雪水が湛水
- 湛水後は植生が点在して生育

施工直後（融雪期）



- 植生が生育し始めて1ヶ月程度で、掘削箇所のほぼ全体を覆う状況まで回復

施工後（1ヶ月後）



施工後（2ヶ月後）

- 順調に生育し、植生の密度も上昇

石狩川（下流）水系流域治水プロジェクト【位置図】

～北海道における社会、経済、文化の基盤「石狩川流域」を洪水から守るための治水対策の推進～

[3/4]

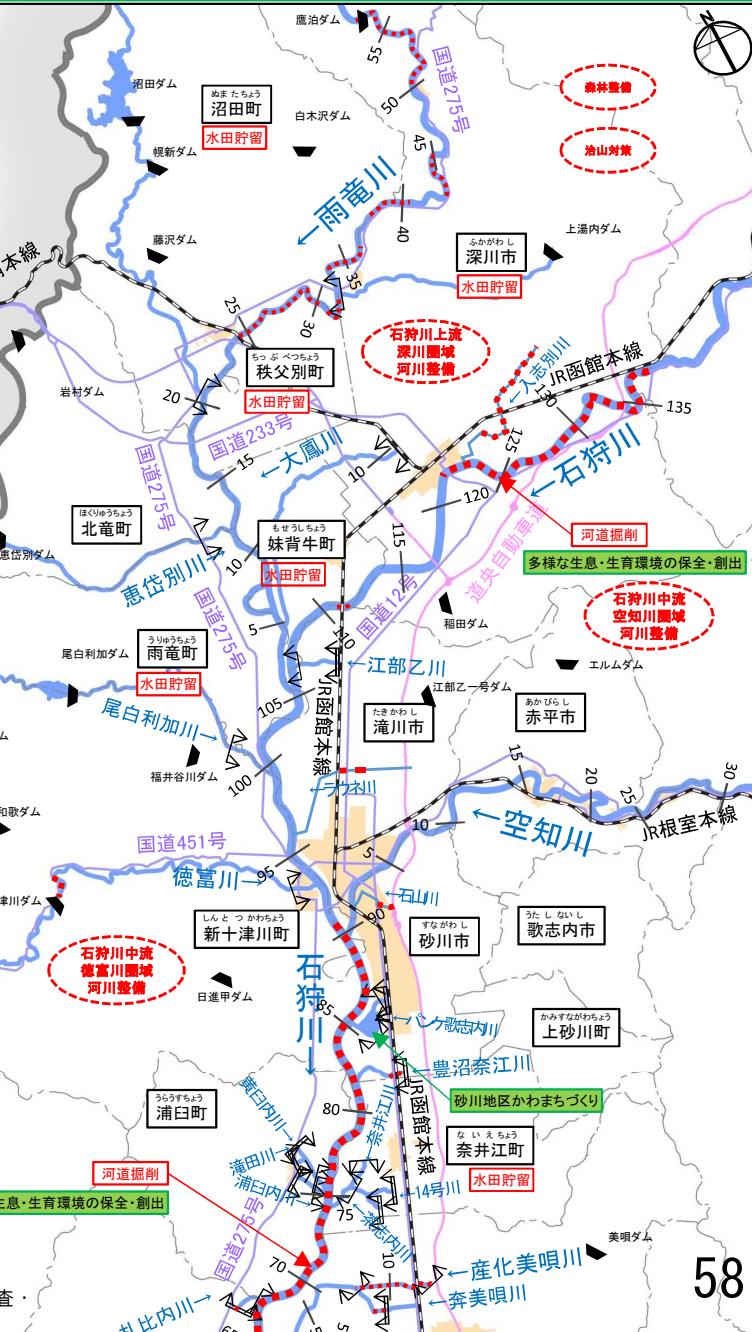
●グリーンインフラの取り組み

『石狩川とその流域の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐための湿地・樹林環境の保全・再生』

③石狩川・雨竜川



雨竜川上流



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 (詳細省略)

■被害対象を減少させるための対策 (詳細省略)

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 (詳細省略)

- 自然環境の保全・復元などの自然再生、健全な水循環系の回復
 - ・湿原環境の再生、雨水浸透緑化



- 生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成
 - ・大型鳥類等の採餌場、休憩地等の生息・生育環境(湿地)創出



●治水対策における多自然川づくり

- ・生物の多様な生息・生育環境の保全・創出

- 魅力ある水辺空間・賑わいの創出
 - ・かわまちづくり (恵庭地区、砂川地区、当別川、利根別川、雨煙別川)
 - ・水辺の賑わい空間創出



- 自然環境が有する多様な機能活用の取り組み
 - ・小中学校などにおける河川環境学習

【全域に係る取組】

- ・生物の生息・生育環境として重要な旧川の保全・再生・利活用に向けた検討
- ・流域特性や土地利用、地域の歴史・文化等との調和を図った石狩川の景観の保全・形成
- ・魅力的な水辺空間のPRや水辺利活用を促進し、地域振興を図る『かわたびほっかいどう』の推進
- ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援



旧川や公園・緑地等の保全・活用
(石狩川沿いの旧川群)



魅力ある水辺空間・賑わいの創出 (砂川地区)

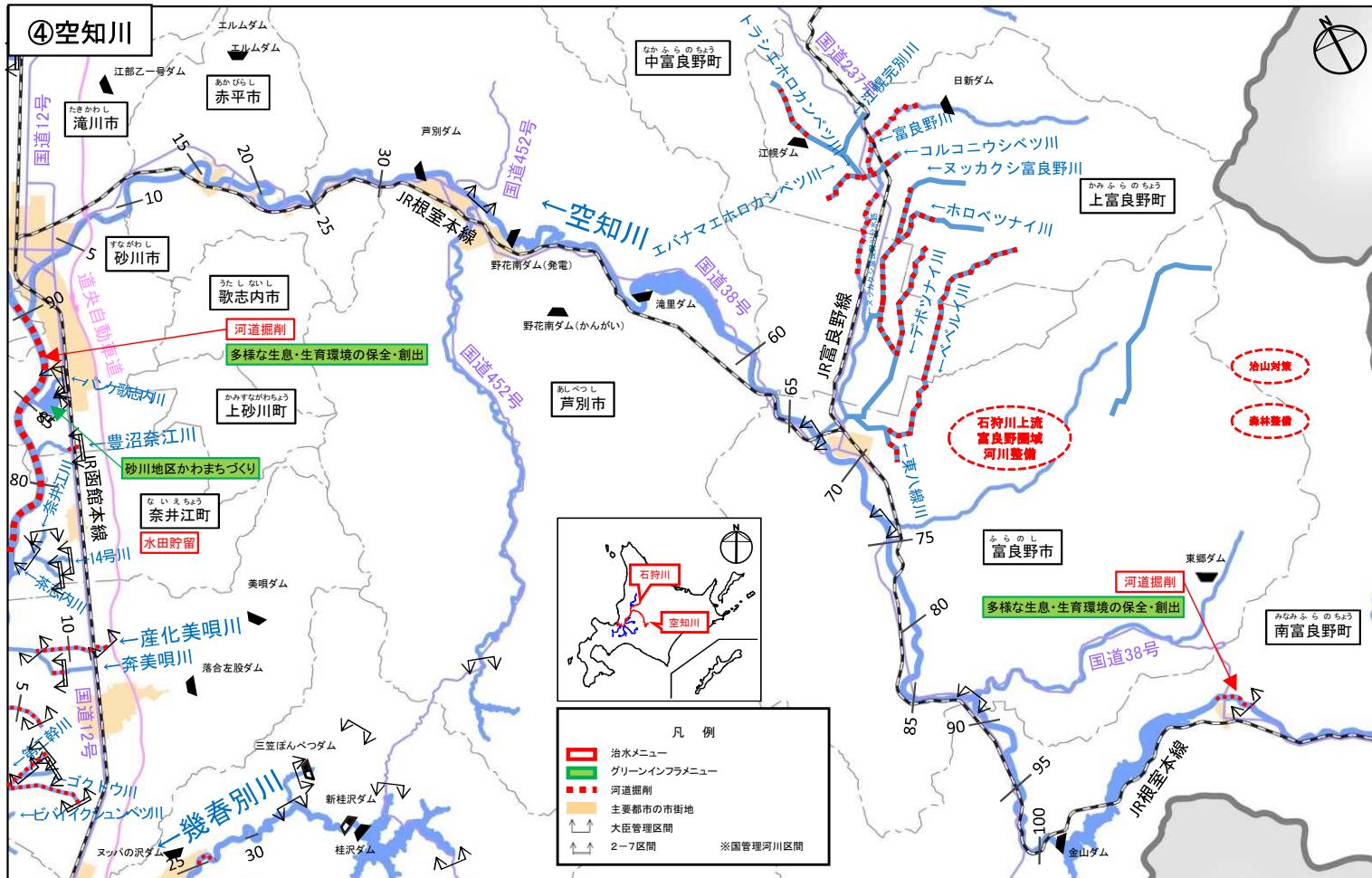
石狩川（下流）水系流域治水プロジェクト【位置図】

～北海道における社会、経済、文化の基盤「石狩川流域」を洪水から守るための治水対策の推進～

[4/4]

●グリーンインフラの取り組み

『石狩川とその流域の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐための湿地・樹林環境の保全・再生』



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 (詳細省略)

■被害対象を減少させるための対策 (詳細省略)

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 (詳細省略)

●自然環境の保全・復元などの自然再生、健全な水循環系の回復
・湿原環境の再生、雨水浸透緑化

●生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成
・大型鳥類等の採餌場、休憩地等の生息・生育環境(湿地)創出

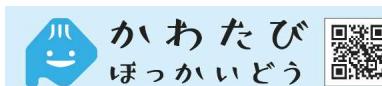
●治水対策における多自然川づくり
・生物の多様な生息・生育環境の保全・創出

●魅力ある水辺空間・賑わいの創出
・かわまちづくり
(恵庭地区、砂川地区、当別川、利根別川、雨煙別川)
・水辺の賑わい空間創出

●自然環境が有する多様な機能活用の取り組み
・小中学校などにおける河川環境学習

【全域に係る取組】

- ・生物の生息・生育環境として重要な旧川の保全・再生・利活用に向けた検討
- ・流域特性や土地利用、地域の歴史・文化等との調和を図った石狩川の景観の保全・形成
- ・魅力的な水辺空間のPRや水辺利活用を促進し、地域振興を図る『かわたびほっかいどう』の推進
- ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援



空知川の水辺利用



地域の歴史と空知川の露頭炭



かなやま湖(金山ダム)の水辺利用



河川環境学習(水生生物調査)



石狩川の景観保全と形成

石狩川（下流）水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～北海道における社会、経済、文化の基盤「石狩川流域」を洪水から守るための治水対策の推進～

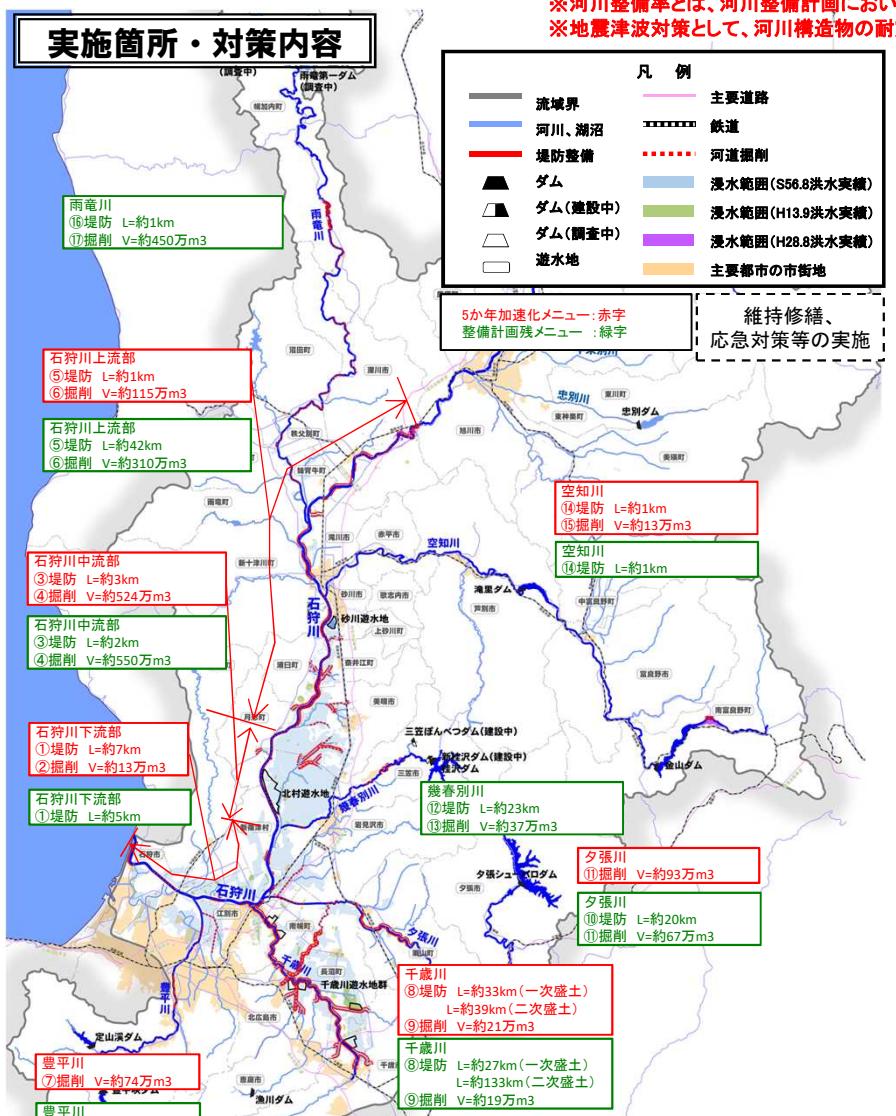
石狩川下流部の河道掘削・堤防整備、北村遊水地の整備等を推進することで、人口・資産が集中する下流域における、治水安全度の向上に寄与うち、美登位地区の河道掘削がR3に完了に伴い、道都「札幌」を含む下流域における治水安全度が向上。また、空知川幾寅地区の河道掘削がR7までに完了することで、幾寅市街地において整備計画目標流量をHWL以下で流下させることができ、市街地の浸水被害解消が可能となる。

短期整備(5か年加速化対策)効果：河川整備率 約49%→約51%

※河川整備率とは、河川整備計画において定めた河道整備流量を流すことが出来る断面を確保している国管理区間の割合

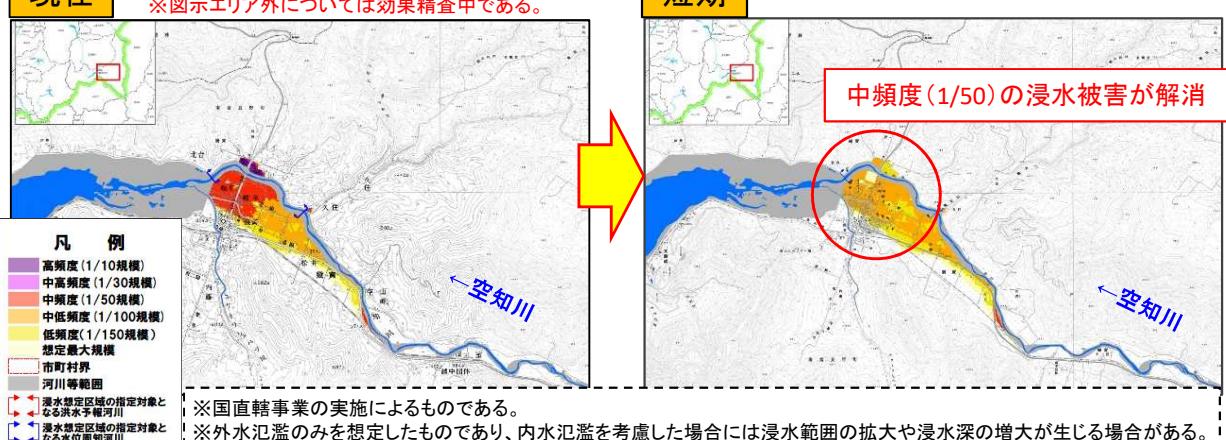
※地震津波対策として、河川構造物の耐震化、橋門の自動化、遠隔操作等を調査検討中

実施箇所・対策内容



現在

※空知川幾寅地区的効果例。
※図示エリア外については効果精査中である。



短期

中頻度(1/50)の浸水被害が解消

区間	対策内容	工程						
		【5か年加速化対策】 短期(R3～R7年度)	中期(R8～R12年度)	中長期(R13～R18年度)				
石狩川	下流部 KP0～KP44	①堤防 ②掘削	100% 100%	100%				
	中流部 KP44～KP63	③堤防 ④掘削	100% 100%	100%				
	上流部 KP65～KP140	⑤堤防 ⑥掘削	20% 20%	60% 100%				
治水安全度の向上に大きく寄与する抜本的な治水対策(北村遊水地)								
豊平川								
千歳川	⑦掘削	100%	100%	100%				
	⑧堤防(一次盛土)	50%	100%	100%				
	⑨堤防(二次盛土)	20%	100%	100%				
中期の完了で、千歳川流域の治水安全度が向上								
夕張川								
幾春別川	⑩堤防 ⑪掘削	30%	100%	100%				
	※新桂沢ダムR5完成							
	治水安全度の向上に大きく寄与する抜本的な治水対策(幾春別総合開発)							
空知川								
雨竜川	⑫堤防 ⑬掘削	100%	100%	100%				
	中期の完了で、空知川流域の治水安全度が向上							
60								
治水安全度の向上に大きく寄与する抜本的な治水対策(雨竜川ダム再生)								

【短期整備完了時の進捗】

【堤防】	・石狩川下流部	60%
・石狩川中上流部	10%	
・その他支川部	25%	
【掘削】	・石狩川下流部	100%
・石狩川中上流部	45%	
・その他支川部	25%	

北海道では全国でも特に
気候変動の影響が大きく、
更なる対策を推進

※実施内容・数量については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

R4

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

グリーンインフラの取り組み紹介

※「グリーンインフラ」とは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、**自然環境が有する多様な機能**(生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等)を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの。

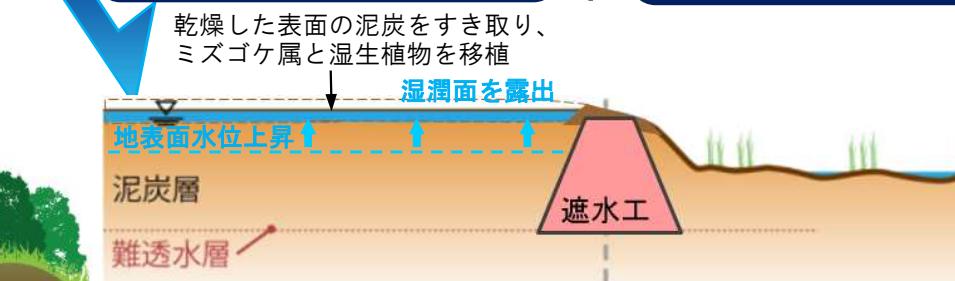
石狩川下流幌向地区自然再生(GI関連)

- 夕張川の高水敷に残存する高位泥炭を活用し、多様な湿生植物の生育環境の保全・再生を実施。
- 高位泥炭の乾燥化の防止・改善、周辺地域の湿生植物の増殖・移植などにより、かつての幌向原野のような高層湿原の再生を目指す。



	2015 平成27年	2018 平成28年	2017 平成29年	2018 平成30年	2019 令和元年	2020 令和2年	2021 令和3年	2022 令和4年	2023 令和5年	2024 令和6年
自然再生調査・検討										
計画検討										
湿地再生										
遮水工										
高水敷整正										
植生移植等										
管理用通路										
モニタリング等										

遮水工による地表面水位の維持 + 幌向地区近傍の湿生植物を増殖・移植



管理用道路の整備(R5、6)



湿地環境の保全・再生



石狩川下流幌向地区自然再生 地域振興の取り組み～河川環境学習

幌向再生の目指す利活用の将来像

『地域活動・学習の場』を継続・拡大していくことを利活用の将来像とする。(R2年度設定)

多様な関係者との連携・取り組み事例

地元NPO団体を中心に、地元若手農家グループ、地域おこし協力隊、教育機関、医療機関等、多様な関係者との連携が進んでいる。

環境学習

●幌向小環境学習「幌向学」



近隣小学校の小学生を対象に「幌向」をテーマとした環境学習(導入体験等)を実施。

●当別高校との環境学習



近隣高校(園芸デザイン科)への出前講座、現地観察等を実施。

●外来種駆除活動・ゴミ拾い



夕張川堤防のゴミ拾いを兼ねた外来種駆除活動を継続実施。リピーターが増加。

地域と連携した湿原づくり

●湿生植物移植体験



地域住民、地元若手農家グループ等と協働による湿生植物移植体験を継続実施。

●医療機関との連携



医療機関で育てていただいた苗を自ら導入してもらう取り組みを継続実施。

幌向自然再生の取組の周知

湿原めぐりワーキングのイベントとしてアイヌ奏者等による演奏会や、若手農家グループ主催イベント等でのPR

●湿原をテーマとした演奏会



●地元イベントや北海道湿地フォーラムでのPR



参加者数・イベント回数の推移

多様な関係者との連携により、幌向再生地を訪れるイベント参加者、イベント回数が年々増加している。

・「石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ」(WS)設立、自然再生実施計画書を策定

・幌向湿原フォーラム開催

・幌向湿原めぐりワーキング(以降、毎年開催)等

・地元商工会、若手農家グループ主催イベントとの連携

・外来種駆除活動(以降、毎年開催)等

・ヤチヤナギビール試作等



地域振興の展開

地域おこし協力隊による、幌向再生地のヤチヤナギを使用したクラフトビールを作成販売・醸造所との連携。



試作販売したヤチヤナギビール(即日完売)

利用しやすい場の整備

駐車スペースを整備し、今後観察デッキ等を整備

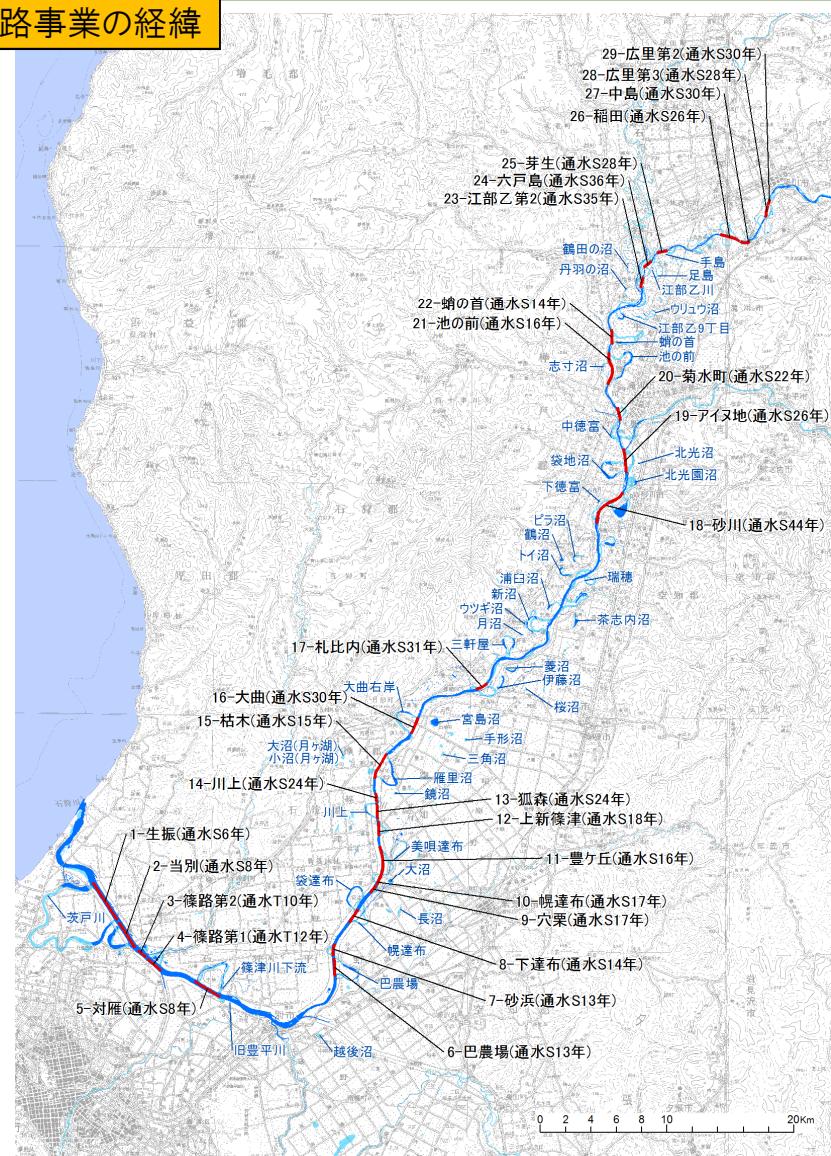


64

旧川・湖沼群の変遷 ~ 生態系ネットワークの形成

- 大正7年に最下流の生振捷水路から石狩川下流の捷水路工事が始まり、砂川捷水路を昭和44年に通水して完了。
 - 29箇所の捷水路工事によって、石狩川下流の河道は約60km短縮。
 - 河道拡幅や堤防整備事業等の治水事業を進め、農地開発等の土地利用が進展した一方、低平地に分布していた湿原や数多く点在していた湖沼も減少。

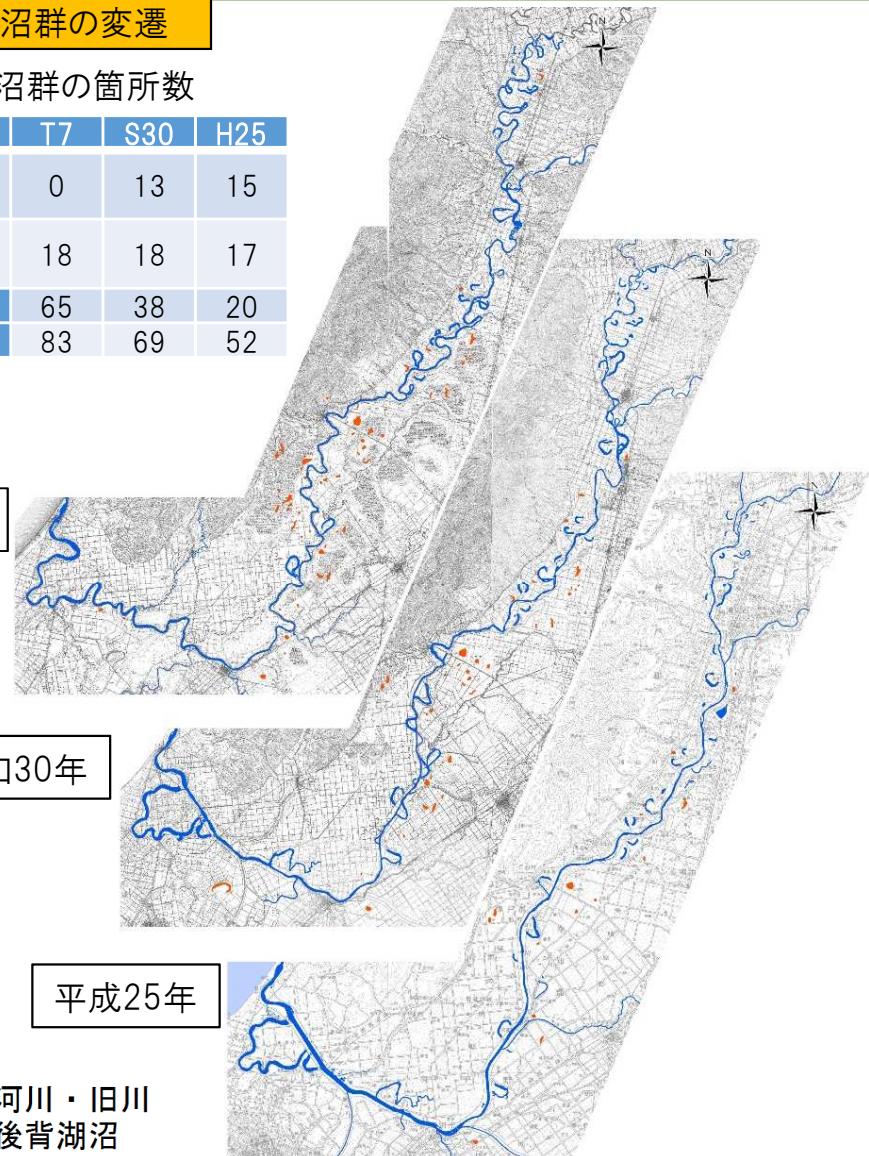
主な捷水路事業の経緯



旧川・湖沼群の変遷

旧川・湖沼群の箇所数

	T7	S30	H25	
旧川数	捷水路 由来 自然短 絡由来	0 18	13 18	15 17
湖沼数	65	38	20	
合計	83	69	52	



大正7年

昭和30年

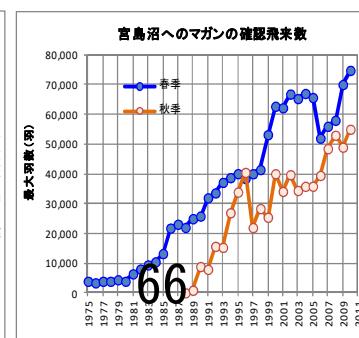
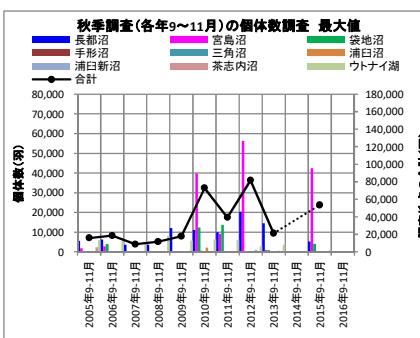
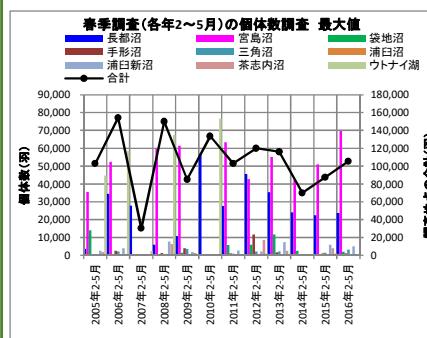
平成25年

渡り鳥の飛来状況

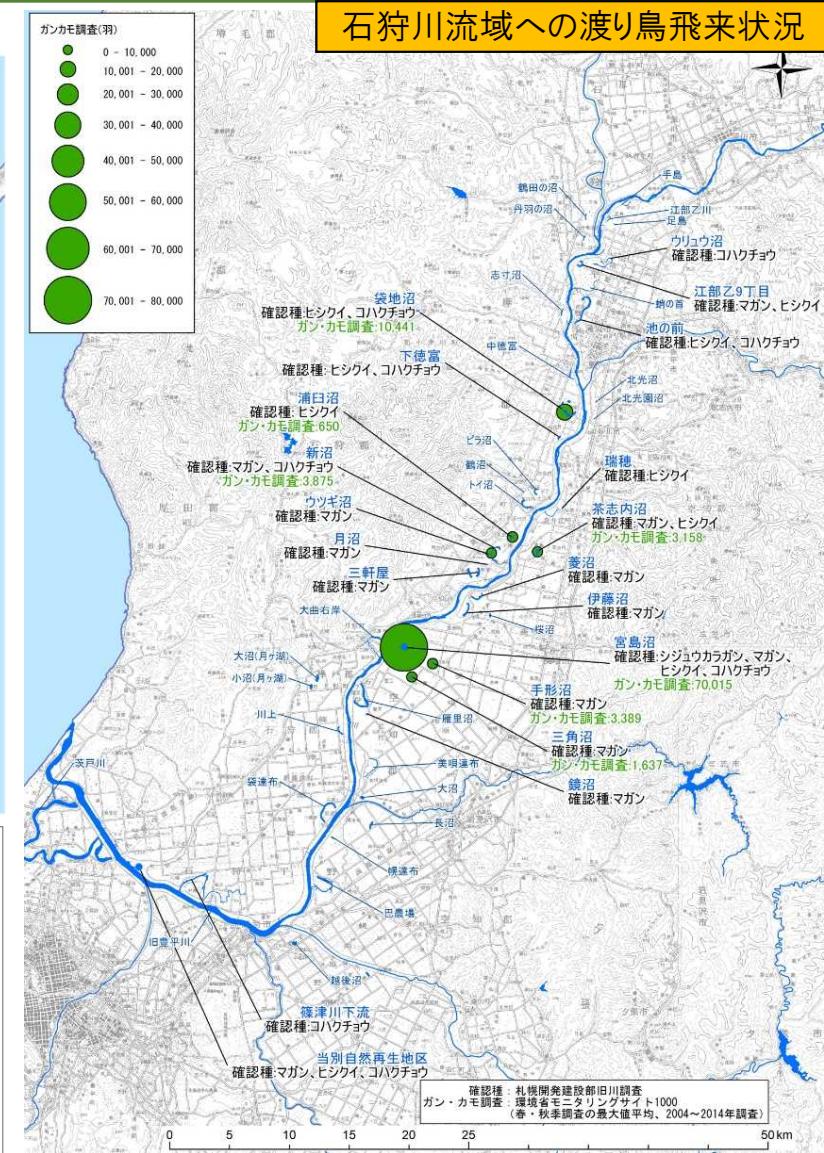
- 石狩川流域は、北海道中央フライウェイと呼ばれる渡り鳥のルート上に位置しており、ラムサール条約登録湿地である宮島沼には、毎年40,000～60,000羽のマガツが飛来し、年々増加傾向。
 - 石狩川下流域に位置する旧川群、自然再生の先行した取り組みが進められている当別地区など、石狩川下流域の湿地環境は、ガンカモ類の渡りの重要な中継地点となっている。

北海道における渡り鳥飛来状況

春季・秋季調査の最大確認数の平均 (環境省生物多様性センターモニタリングサイト1000)



石狩川流域への渡り鳥飛来状況

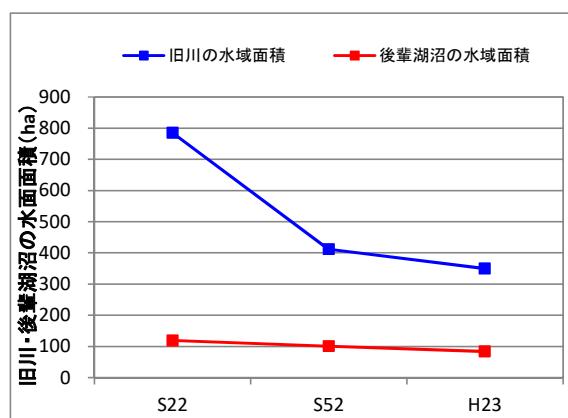
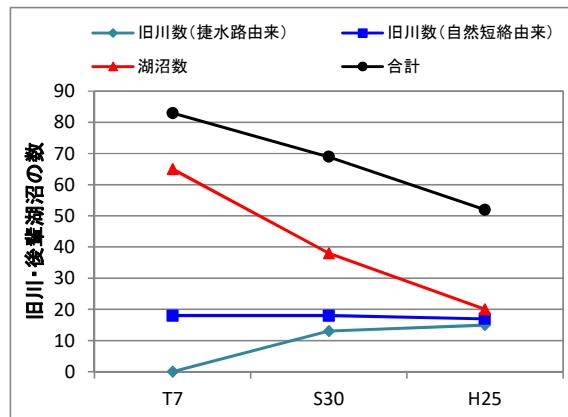


旧川・湖沼群の課題

- 河川、湖沼、湿原等は、森林、農地、都市、沿岸など、上流から下流に至る各地域を連続した空間として結びつける、国土の生態系ネットワークの重要な基軸。
- 旧川・湖沼群のような氾濫原水域は危機的な速度で消失し、かつて65箇所あった湖沼は現在20箇所に減少。
- 宮島沼における水環境問題など、石狩川流域の生態系ネットワークを支える重要な基軸の劣化が顕在化。

氾濫原水域の減少

- 大正7年から平成25年にかけて、湖沼数が65箇所から20箇所に減少。
- 昭和22年から昭和52年にかけて、旧川の水面面積が約50%に減少。



宮島沼の水環境問題・渡り鳥の集中化

- 宮島沼は、有数のマガノの中継地となっており、地元の美唄市だけでなく北海道が誇る大切な資産。
- 宮島沼では、①急速に悪化している水環境問題(湖沼の縮小、浅底化、植物残渣の堆積)、②渡り鳥の集中化による周辺農地におけるマガノの食害問題の2つの大きな問題が顕在化。



宮島沼水面面積の減少

石狩川下流旧川群自然再生(袋地沼)

- 河川、湖沼、湿原等は、森林、農地、都市、沿岸など、上流から下流に至る各地域を連続した空間として結びつける、国土の生態系ネットワークの重要な基軸。
- 「多自然川づくり」を通じた湿地整備、河岸浅場の整備など、水域を中心とした生態系ネットワークの形成を継続する。
- 旧川・湖沼群の湿地環境整備によって、流域全体の生態系ネットワークの形成へと取り組みを拡大する。
- これらの流域を視点とした自然再生の取り組みを通じて、多様な地域の主体とネットワークを構築し、地域づくり、農業・水産・観光振興等に貢献することを目標とする。

石狩川下流旧川における自然再生の目標

- ◎石狩川を主軸とした旧川・湖沼群の湿地環境保全と生態系ネットワーク機能の強化
- ◎石狩川流域の特性を活かした地域づくり・農業・水産・観光振興等への貢献

●目標1:各旧川・湖沼における生物の生息生育環境改善

- 石狩川旧川・湖沼群について生物の生息生育環境の拠点となる湿地環境を改善し、個別の旧川・湖沼の質の向上を図る。

●目標2:流域の生態系ネットワーク形成

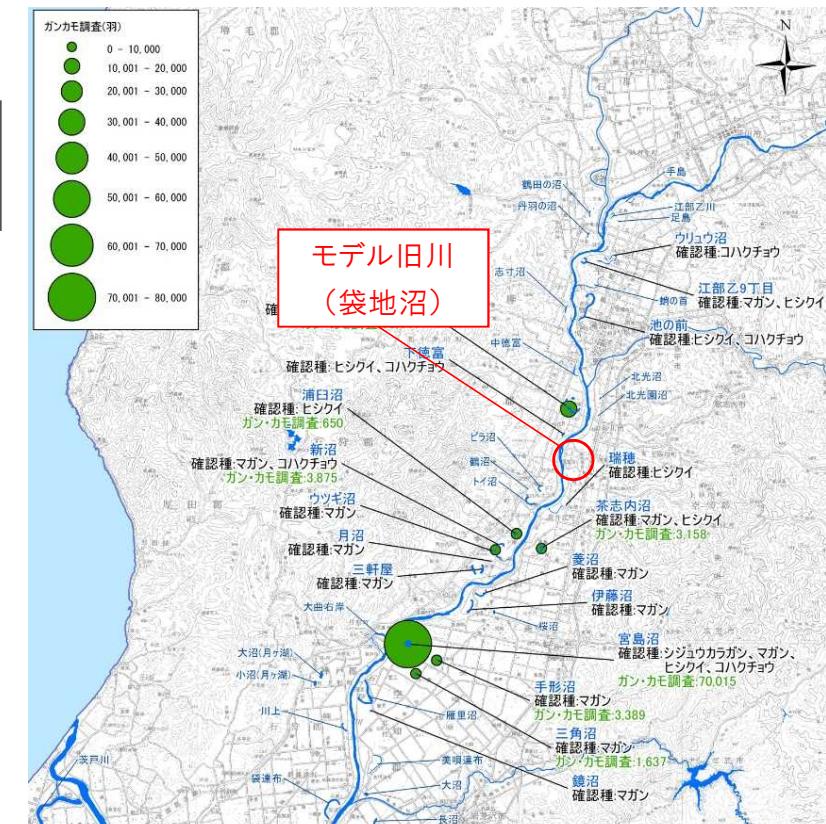
- 石狩川本川等の高水敷等の陸域は、生物の生息生育環境の拠点となる湿地環境を連續化し、生物の移動経路を確保する。
- 石狩川本川、支川、旧川及び旧川に流入する支流は、流域の視点から本川と旧川の連続性、旧川と支流の連続性を改善し、魚類等の移動経路の連続性を確保する。

●目標3:地域ネットワークの形成

- 石狩川旧川・湖沼群は、下流から上流まで約100kmの流程に及び14の沿川自治体があることから、自然再生の推進にあたっては多様な主体参加の仕組みづくりを行うとともに、地域間の交流を通じて地域ネットワークを形成し、人づくり・地域づくりに貢献する。



石狩川下流(雨竜川合流点付近から豊平川合流点付近の区間)に分布する32の旧川と15の後背湖沼から、旧川自然再生におけるモデル旧川を抽出。

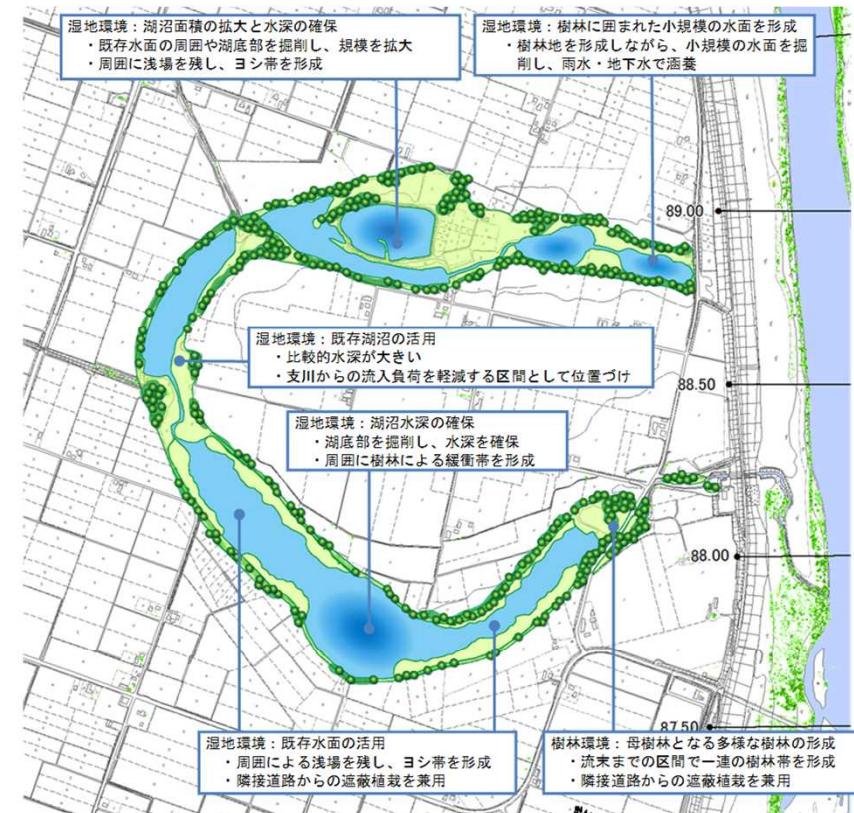


環境面での重要性、治水効果、事業実施の難易を基にモデル旧川として袋地沼を抽出

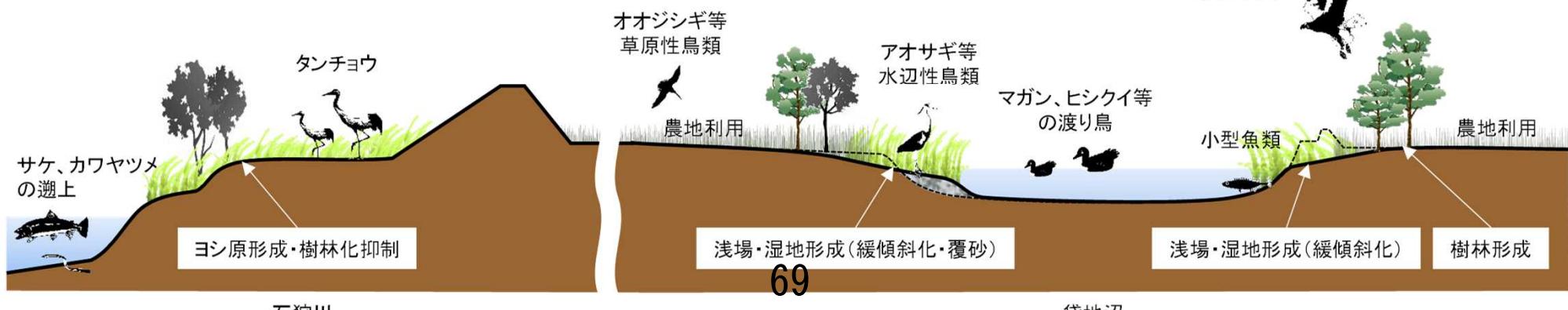
石狩川下流旧川群自然再生(袋地沼)

有識者からの意見収集、ワークショップ(地域連携)を通じて検討を進め、モデル旧川での自然再生を進める。

R4	<ul style="list-style-type: none"> 事業対象旧川の抽出 現地調査（鳥類・魚類・水質） 治水効果の把握（外水氾濫・内水氾濫） 生物効果の予測、整備の方向性検討 実施計画素案作成（勉強会意見をFB）
R5～6	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査（鳥類・魚類・水質）、測量調査（縦横断・陸域） 整備方策の具体化（造成形状・整備方策） 治水効果の詳細検討 生物予測評価手法の検討、目標設定の検討 モニタリング計画立案、利活用方策検討 実施計画案の検討（勉強会・WS意見をFB）
R7	<ul style="list-style-type: none"> 実施計画取りまとめ、実施設計
R8以降	<ul style="list-style-type: none"> 工事実施、モニタリング調査



整備イメージ



砂川地区かわまちづくり（砂川スイーツが結ぶ まち・人・水辺）

砂川オアシスパーク（砂川遊水地）を活用するため、アウトドアスポーツ等のアクティビティが楽しめる空間として親水護岸や管理用通路等の整備を行うとともに、ウォーターヒルズスクエアを都市・地域再生等利用区域に指定することによって、民間事業者等による営業活動を可能とし、砂川のスイーツや観光情報の発信拠点として整備します。

ソフト施策

地域と連携し様々なイベントを実施

- THE祭り、石狩川下覧櫂、防災フェスティバル（例年7月開催）
- ラブ・リバー砂川夏祭り、砂川納涼花火大会（例年8月開催）
- 秋のおくりもの展（例年9月開催）
- すながわマラニック大会（例年9月開催）
- アイスカルーセル（例年2月開催）等

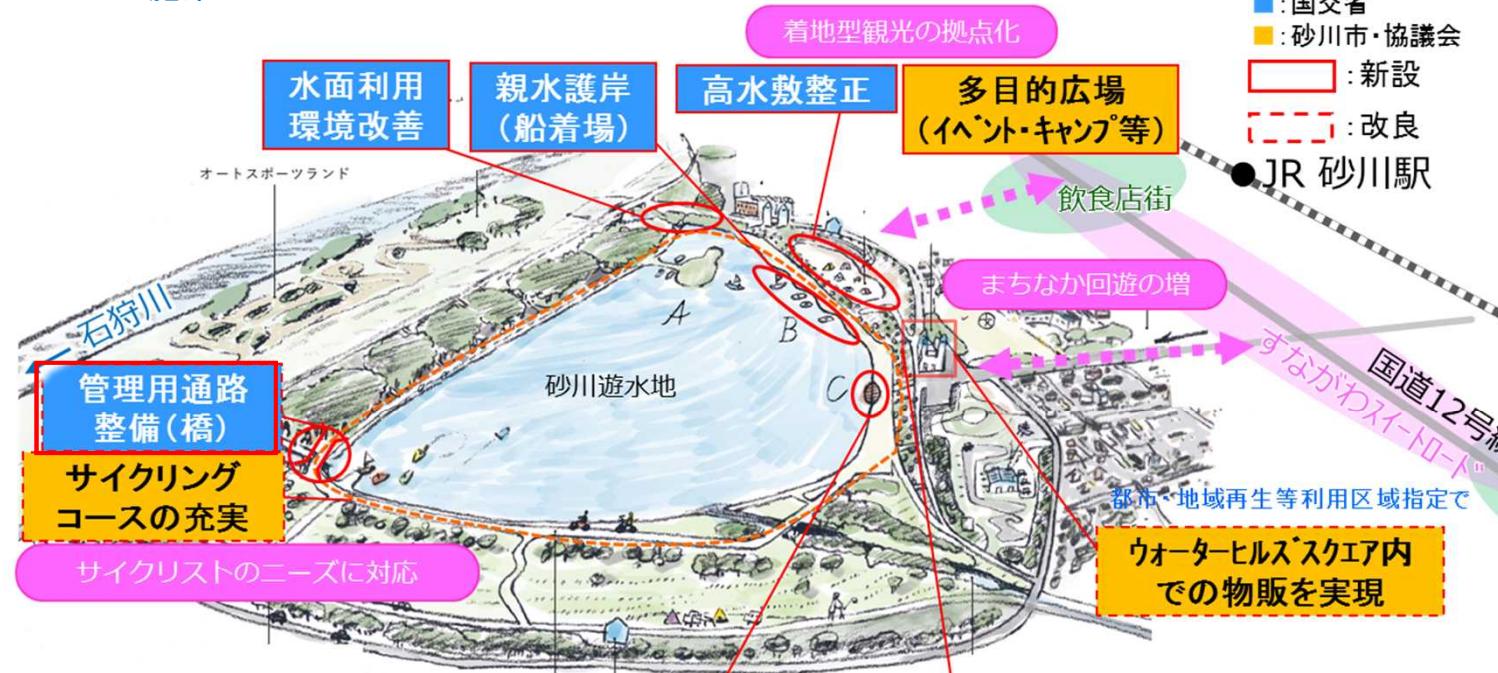


管理用通路の活用イメージ

管理用通路の接続により、水辺を連続して走行できるようになります！



ハード施策



整備主体	整備内容	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
河川管理者	高水敷整正									
	親水護岸									
	管理用通路									
	水路工									
	測量・設計									
	モニタリング									
砂川市協議会	施設整備等									

砂川地区かわまちづくりの利活用状況

THE 祭り（令和4年7月16、17日）



砂川納涼花火大会（8月5日）



すながわスイートマラニック（令和4年9月19日）



砂川地区かわまちづくりの利活用状況

秋のおくりもの展（令和4年9月4日）



秋のおくりもの展（令和4年9月4日）



秋のおくりもの展（令和4年9月4日）



秋のおくりもの展（令和4年9月4日）



恵庭地区かわまちづくり（花のまち恵庭で広がる、水辺の観光拠点と次世代住環境）

恵庭市の「ガーデンデザインプロジェクト」では職・住・観光機能拡充のため、道と川の駅(花ロードえにわ)周辺を「花のビレッジ」と位置づけ、市による花の拠点(公園)整備と共に、民間事業者による新住宅団地の建設を進めている。これらの事業と国が連携し、管理用通路の整備等を通じて公園や市街地との連続性を向上させるとともに、親水施設の整備によって良好な水辺空間を創造し、観光地の魅力や居住環境の向上を図る。

ソフト施策

地域と連携し様々なイベントを実施

- ・恵庭・花とくらし展、えにわマルシェ：毎年6月同時開催
 - ・かのなサマーフェス：毎年8月
 - ・サイクルフェスタ恵庭：毎年9月頃
 - ・恵庭ウォーキングマップへの河川沿いルートの掲載
 - ・えにわシニックナイト：毎年2月
 - ・サケの稚魚放流：4月、ヤマメ稚魚放流：6月
 - ・千歳川かわ塾（川や水の大切さを学ぶ体験環境学習）



サケの稚魚放流



えにわマルシェ

「道と川の駅(花ロードえにわ)」は、河川・道路・まちづくりが一体となり整備(H20全面オープン)。



ハード施策



恵庭地区かわまちづくりの利活用状況

ガーデンフェスタ北海道 2022（令和4年6月25日～7月24日）



ガーデンフェスタ北海道 2022（令和4年6月25日～7月24日）



ガーデンフェスタ北海道 2022（令和4年6月25日～7月24日）

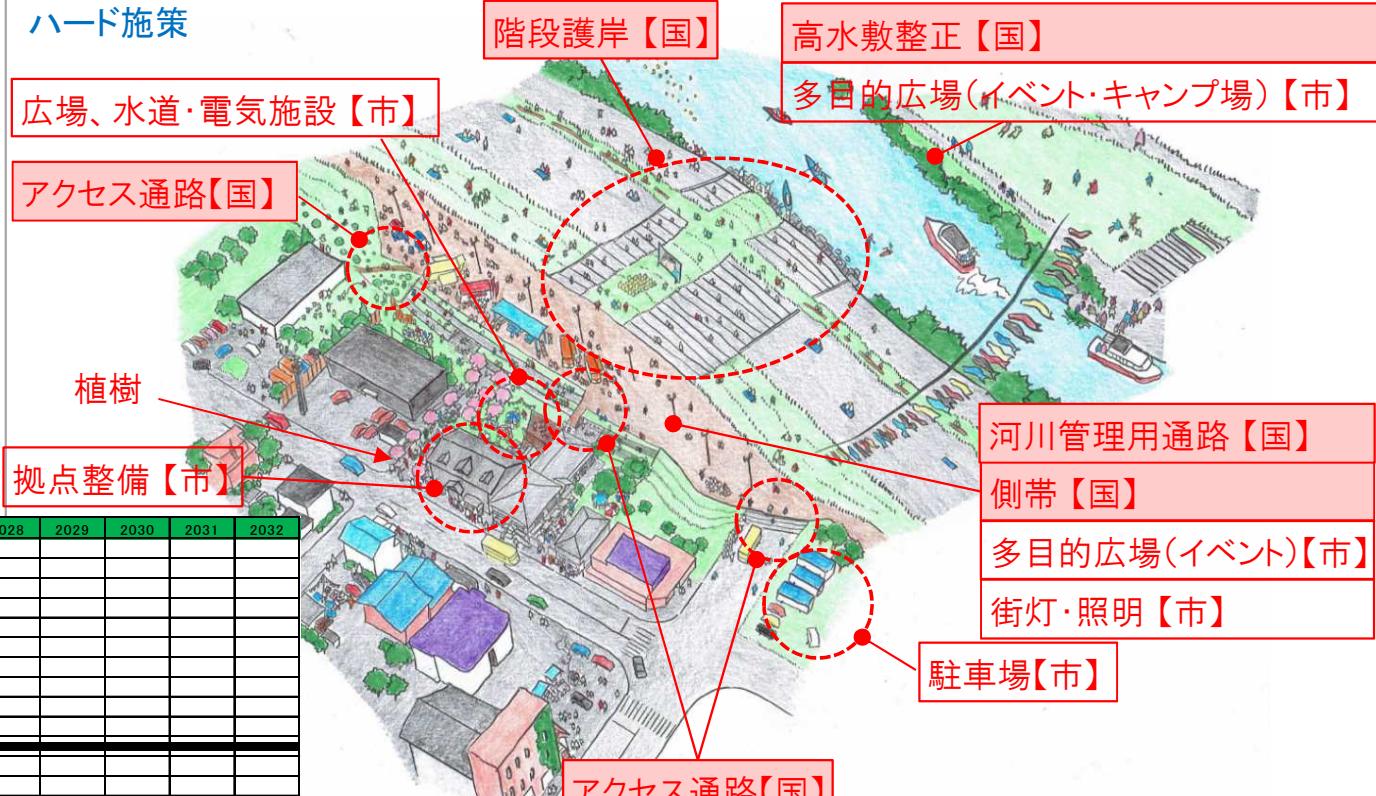


ガーデンフェスタ北海道 2022（令和4年6月25日～7月24日）



江別市かわまちづくり

江別市は、条丁目地区・大川通地区と千歳川が一体となった水辺空間の活用、条丁目地区内の歴史的建造物の活用、周辺地域との連携、条丁目地区的歴史・文化の発信を推進し、江別港を中心に舟運で栄えた江別市条丁目地区的歴史性を活かした新たな「条丁目スタイル」の観光・まちづくりによる賑わいの創出により、条丁目地区・大川通地区を含む江別市の地域活性化に寄与することを目指します。



整備主体	整備内容	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
河川管理者	かわまちづくり施設実施設計											
	かわまちづくり勉強会											
	高水敷整正											
	側帯											
	河川管理用通路											
	河川管理用通路 階段工①(川裏)											
	河川管理用通路 階段工②(川裏)											
	河川管理用通路 階段工③(川裏)											
	河川管理用通路 取付道路(川裏)											
	階段護岸											
江別市	モニタリング											
	堤防整備(他費目)											
江別市	旧岡田倉庫(外輪船)移設等											

ソフト施策

国交省:都市・地域再生等利用区域の指定 等
江別市:千歳川の水辺空間を活用した新たなイベントや冬のアクティビティ等の企画、水辺・歴史的建造物とまちをつなぐ広域周遊観光コースの設定 等



「江別市かわまちづくり」計画 登録証伝達式（令和4年8月22日）

令和4年8月9日付けて
「江別市かわまちづくり」計画が新規登録



(右) 富山札幌開発建設部長から (左) 江別市長へ登録証を伝達



伝達式は関係者約11名が参加！

えべつし
「江別市かわまちづくり」(北海道江別市)

対象河川： いしかりがわ ちとせがわ
一級河川 石狩川水系千歳川【国管理河川】
市町村名： 北海道江別市
えべつし
推進主体： 江別市

立地図

1. 概要

江別市では「江別市都市計画マスタープラン」に基づき、江別駅周辺の歴史性や界隈性、良好な河川環境等の特性を活かした地域の魅力向上を目指して、重要な地域資源である千歳川と共存した地域づくりを推進しています。

この取組を充実させるため、本計画では、石狩川合流点付近の千歳川の水辺整備を行い、水辺・周辺の歴史的建造物・まちをつなぐことで、まちなかの回遊性・親水性を高め、賑わいの創出による地域の活性化を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

国土交通省：側帯、階段護岸、高水敷整正、河川管理用通路、アクセス通路
江別市：拠点整備、多目的広場、駐車場、街灯・照明、水道・電気施設

3. ソフト施策の内容

国土交通省：都市・地域再生等利用区域の指定 等
江別市：千歳川の水辺空間を活用した新たなイベントや冬のアクティビティ等の企画、水辺・歴史的建造物・まちをつなぐ広域周遊観光コースの設定 等

整備イメージ

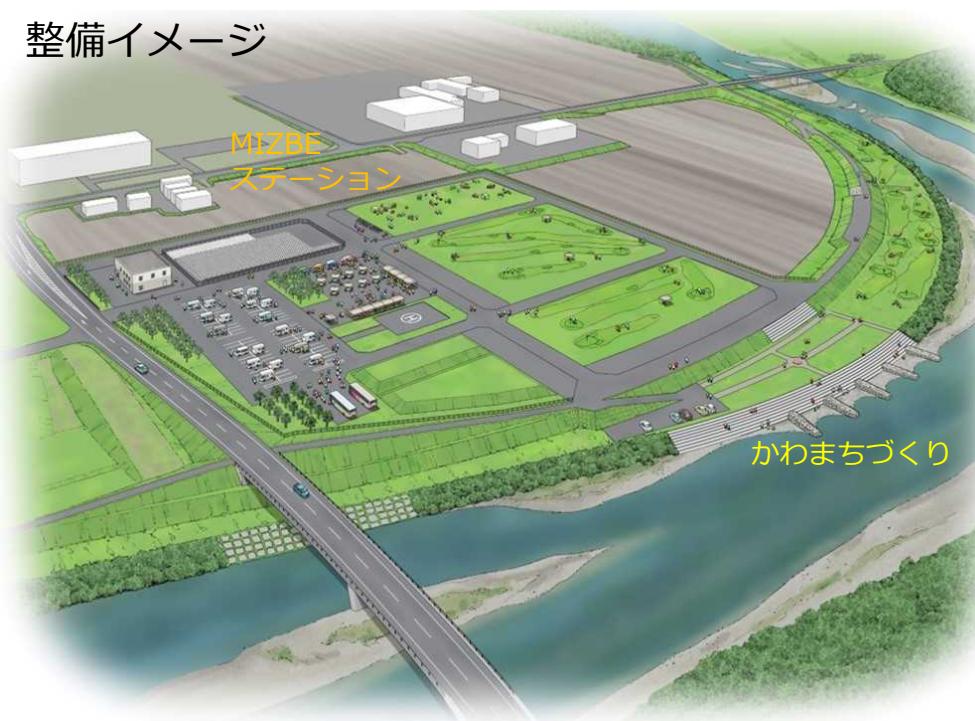
※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

「南富良野町かわまちづくり計画」及び 「幾寅地区MIZBEステーション」登録証伝達式（令和4年8月22日）

令和5年9月8日、南富良野町が策定した「かわまちづくり計画」及び北海道開発局と南富良野町が連名で申請した「幾寅地区MIZBEステーション」が登録されたことから、南富良野町への伝達式を行いました。

札幌開発建設部 小林部長より南富良野町 高橋町長に登録証が伝達され、高橋町長からは「観光施設と連携し、地域活性化の拠点として多くの方が訪れる町の玄関口となることを期待している」とお話をされました。

整備イメージ



令和5年8月10日付けで
「南富良野町かわまちづくり計画」が登録



令和5年8月22日付けで
「幾寅地区MIZBEステーション」が登録



77 高橋町長が「南富良野町かわまちづくり計画」の登録証、岩淵副町長が
「幾寅地区MIZBEステーション」の登録証を手にし記念撮影

かわたびほつかいどう ~ 地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携

■ひつじ除草

- 当別町の石狩川右岸堤防において「ひつじ」を活用した除草を実施。河川維持管理コストの縮減と環境への配慮の観点から、今年度新たに河川部門で試行的に実施。実施期間:令和5年5月29日～10月14日
- 今後、「ひつじ除草」の効果を確認・検証するとともに、河川空間における水辺や「ひつじ」とのふれあい、周辺施設を活かした地域振興へ資する取組の展開を検討→当別町の道の駅に案内ポスター、ルート上に看板設置
- 連携相手:当別町等

■サイクルツーリズム

- 石狩川流域圏ルートの検証、PR、モニタリングを主眼として、走行会をR3、R4に実施。R5は10月3日に空知、4日に千歳、25日に旭川で実施。
- サイクリング協会、関係自治体サイクル担当者(旭川市千歳市、滝川市、恵庭市、北広島市、)等が参加し走行。コースを走行後に、路面状況など気づいた点や改善した方が良い点など、参加者アンケート調査を実施。
- R3、サイクルルート協議会へ応募。R4はアクションプラン策定。
- 連携相手:石狩川流域圏会議

【取組エリア】※ 国道337号札幌大橋右岸上流



【取組地域の紹介】

取組地域の当別町太美地区は、札幌市に隣接する田園都市であり、令和4年3月12日の、JRロイズタウン駅の開業やアミューズメント性を兼ね備えたロイズふと美工場直売店が同年3月1日オープンするなど、今後、人を呼び込む流れが加速し、発展が期待される地域です。



更なるコスト縮減
と環境への配慮

かわたびほっかいどう

■CHITOSE RIVER CITY PROJECT2023

- 10周年となる今年は「CHITOSE みらい EXPO」と題し開催。
- 千歳川にテラスを設置し憩いの場を提供。飲食ブースやアクティビティ、展示ブースなど26の出展。
- シニックバイウェイと連携した事業紹介ブースも設置。
- 連携相手:千歳青年会議所、シニックバイウェイ



■北海道カメラ女子の会との連携

- 北海道カメラ女子の会と連携し、インスタなどで魅力を発信してもらう、石狩川クルーズと川の博物館のモニターツアー開催。
- 北海道カメラ女子の会とは、北海道に住むカメラや写真が好きな女性があつまる会員数が約610名の北海道最大のカメラ女子のコミュニティ。市町村や企業とコラボして様々な魅力を発信している。
- 今後、北海道カメラ女子の会と連携し、情報を発信していく。
- 連携相手:北海道カメラ女子の会 <https://hokkaido-camera.com/>

■新桂沢ダム・三笠ぽんべつダム見学会

- 新桂沢ダム及び三笠ぽんべつダムを建設する幾春別川総合開発事業について、一般の方々に広くご理解頂くため、ダムの建設現場等の見学会を行うとともに参加者と意見交換会を実施。→R5 7月29日に実施



見学会・意見交換会の目的

北海道開発局が実施している幾春別川総合開発事業について広くご理解いただくため、三笠市に建設している新桂沢ダム及び三笠ぽんべつダムの建設現場の見学会及びダム事業についての意見交換会を実施します。

●期日／2023年 7月 29日(土) (少雨決行)

新桂沢ダム建設現場(見学)・三笠ぽんべつダム建設現場(見学)

意見交換会(皆様のご質問にお答えします)(室内)

※当日の天候や現場の状況により、やむを得ず中止または内容を変更する場合があります。

●参加／無料 ●添乗員／同行 ●食事／なし

●募集人員／40名 (応募多数の場合には抽選させていただきます。既選結果は改めてメール等にてご連絡差し上げます。)

●応募期間／7月3日(月)13:00より7月12日(水)13:00まで

●主催／北海道開発局札幌開発建設部幾春別川ダム建設事業所

●利用バス会社／札幌ばんけいバス、ダイコク観光バス

※募集対象・応募方法については、裏面をご確認ください。

コード:XCD012



かわたびほっかいどう（アイスカルーセル）

アイスカルーセルとは、フィンランド発祥の冬の遊びで、氷を円状に切り抜き湖上で回転させる氷のメリーゴーランド。ダム湖を中心とした360度に広がる大絶景を非日常的な視覚感覚で楽しむことが出来る。

■金山ダム湖アイスカルーセル

- 継続的に採算が取れるようなイベントにできるかという観点で町と観光協会で議論を進めている。金山ダムの冬季結氷する湖面を活用することで、地域振興観光発展に資するコンテンツを造成することの可能性について、実証実験及び検証を令和4年1月19日実施。
- 連携相手:南富良野町まちづくり観光協会、南富良野町



■オアシスパーク（砂川遊水地）アイスカルーセル

- 夏だけではなく冬も含めた一年を通して砂川遊水地を利用するため、「冬のオアシスパークを満喫しよう！」のイベントの一環として令和5年2月11日に実施。当日は総勢200名がアイスカルーセルに参加。
- 連携相手:砂川観光協会、オアシスパークからゆめまちづくり協議会等



■定山渓ダム湖アイスカルーセル

- 札幌の奥座敷定山渓地区にある、定山渓ダムの冬季氷結する湖面を活用することで、地域振興観光発展に資するコンテンツを造成することの可能性について、実証実験及び検証を令和4年1月23日実施。
- 連携相手:定山渓観光協会、TOYAMA推進協議会



■夕張シューパロダム湖アイスカルーセル

- 「ゆうばりde冬あそび」のイベントの一環として令和5年2月9日～令和5年2月12日で実施。
- 連携相手:夕張de街あそび実行委員会(夕張市)



河川空間を活用した民間事業者の取り組み

- ・ 川見(8月19～27日)
R5年はロングラン開催(6回目の開催)
豊平川の幌平橋下流左岸において、
キッチンカー、出店、ステージイベント等を開催。
川見では夜の幌平橋ライトアップも実施。
今後も、特区申請に向けた打ち合わせや
イベント開催について事務所、本部で協力を継続。



川見

81

